第11次南木曽町総合計画策定にかかる
基礎調査報告書

令和7年3月

目次

基礎調査の概要.....1

第１章　地勢.....2

第２章　人口動向.....3

１．人口の現状分析.....3
（１）　総人口および総世帯数の推移 3
（２）　年齢３区分別人口の推移 3
（３）　人口ピラミッド 4
（４）　地区別人口の推移 4
（５）　自然動態の状況 5
（６）　社会動態の状況 6

２．将来人口推計.....11
（１）　将来の人口構造 11
（２）　将来人口の推計・分析 12

第３章　地産業・雇用の状況.....13

1. 南木曽町の就業者の状況.....13
（１）　就業・雇用の状況 13

２．南木曽町の産業の状況.....16
（１）　産業連関分析 16
（２）　産業別の状況 19

第４章　コミュニティ・社会基盤.....30

１．地域防災.....30

２．交通安全.....30

３．交通.....31

４.自動車等の保有状況.....32

第５章　子育て・教育.....33

１．子どもの状況.....33
（１）　子どもの数の推移 33
（２）　蘇南高校への進学状況 35

（３）　蘇南高校卒業後の進路 35
第６章　健康・医療・福祉 36
１．健康づくりの状況 36
（１）　平均寿命 36
（２）　保健師一人当たりの人口 36
（３）　死亡者数および死因の推移 37
２．医療の状況 40
（１）　医療費 40
３．高齢者福祉の状況 41
（１）　高齢化の状況 41
（２）　介護保険の状況 43
第７章　環境・エネルギーの状況 47
１．ゴミの排出量 47
２．再生可能エネルギー導入容量 47
第８章　行財政の状況 48
１．税収入および住民一人当たり税収入の推移 48
２．町民一人当たりの扶助費 48
３．町民一人当たり地方債残高 49
４．町民一人当たり積立金残高 49
５．経常収支比率の推移 50
６．木曽郡内町村及び類似団体との財政指数の比較 50

基礎調査の概要

1. 基礎調査の目的

基礎調査(以下、本調査)は、第 11 次南木曽町総合計画(以下、総合計画)の策定にあたって、統計データを確認することで町の人口・産業をはじめとする各行政部門を取り巻く環境の変化を客観的に捉えることを目的として行うものです。

本調査では、時系列分析と他自治体との比較分析を行うことで、本町で生じている傾向や変化と町の強み・弱みの把握を行います。

2. 本書の構成

第1章	地勢から南木曽町の特徴を明らかにする
第2章	町の人口構成や特徴、今後の人口推計について整理する
第3章～8章	総合計画の各施策分野に対応するデータを用いて町の状況を確認する

3. 比較対象自治体

南木曽町と比較する町村は人口規模や産業構造を考慮し、以下としています。

類似町村名	泰阜村・小川村・大桑村・筑北村・青木村・根羽村

第1章 地勢

南木曽町は、長野県の南西部・木曽谷の南端に位置し、町の面積（215.93 ㎢）の約９割以上が森林で占められており、そのうち約７割が国有林です。

東は伊那谷の飯田市・阿智村、西は岐阜県中津川市、北は大桑村に隣接しています。町の中央を流れる木曽川沿いには、南北にＪＲ中央本線と国道 19 号が走り、東西には国道 256 号が伊那谷に通じています。隣県の中津川市中心部まで約 22km、県内近隣市町村の木曽町まで約 35km、飯田市まで約 35km の距離にあり、古くから伊那谷、木曽谷と美濃を結ぶ交通の要衝でした。

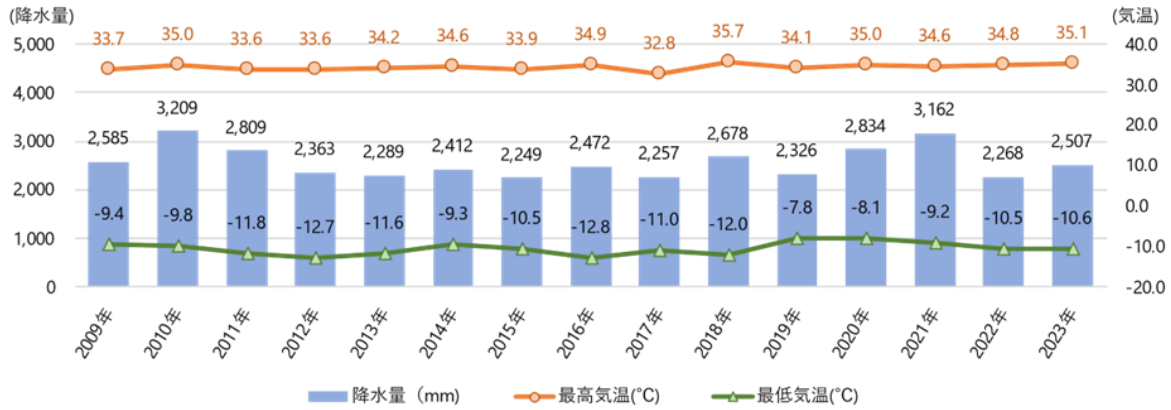
図表 1 南木曽町の地形

当町は東西 20km、南北 15km、周囲 70km の山間地であり、木曽川と、東の木曽山脈側からの蘭川・与川、西側からの坪川・長谷川・柿其川等の支流により形成された狭い段丘上に、与川・北部・三留野・妻籠・蘭・広瀬・田立の７集落と農用地が細長く点在しています。各集落の標高は約 300m から約 950m におよんでいます。

木曽川右岸側の最高峰は奥三界岳（1,811m）、左岸側は摺古木山（2,169m）となっており、中央には標高 1,676m の南木曽岳がそびえ立ち、急峻な斜面が多く平坦面が少ない地形となっています。地質の大部分が花こう岩類で、風化作用により崩れやすい基盤岩を含む山体や、基盤岩を被う未固結の段丘堆積物・崩積土などが分布しています。

気候は温暖で雨量が多く、年間降水量は多い年には 3,000mm に達します。近年は地球温暖化の影響からか、警報級かつ季節外れの豪雨や台風により災害へのリスクがこれまで以上に高まっています。

図表 2 降水量と気温の推移



出典：気象庁ホームページ

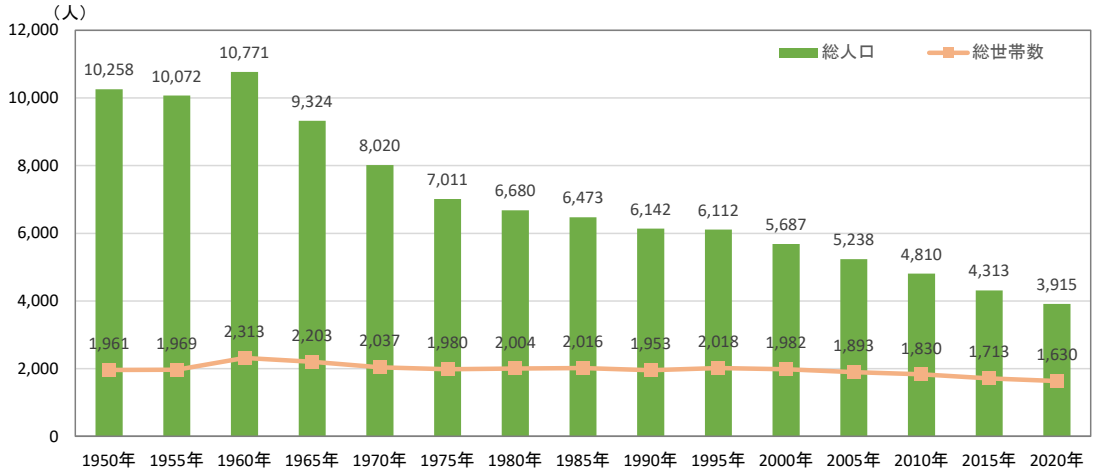
第2章 人口動向

1. 人口の現状分析

（１） 総人口および総世帯数の推移

町の総人口は 1960 年をピークに減少し続け、2020 年に初めて 4,000 人を下回りました。総世帯数は 1970 年以降、2,000 世帯前後で推移してきましたが、2005 年ごろから減少し始め、2020 年は 1,630 世帯まで減少しています。

図表 3 総人口と世帯数の推移

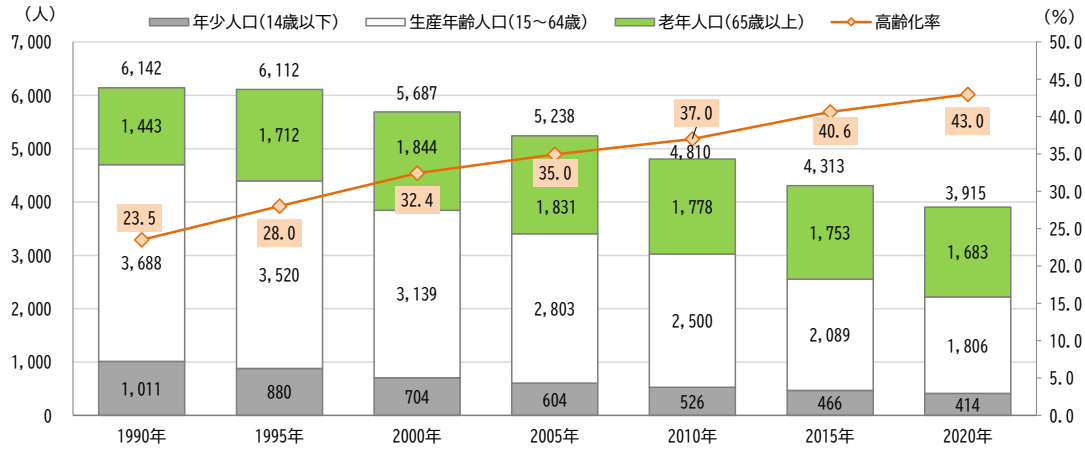


出典：国勢調査

（２） 年齢３区分別人口の推移

年齢 3 区分別の人口をみると、年少人口、生産年齢人口は減少が続いています。老年人口は 2000 年をピークに、その後は減少の局面に入っています。高齢化率は一貫して増加しており、2020 年は 43.0%となっています。

図表 4 年齢3区分の人口と高齢化率の推移

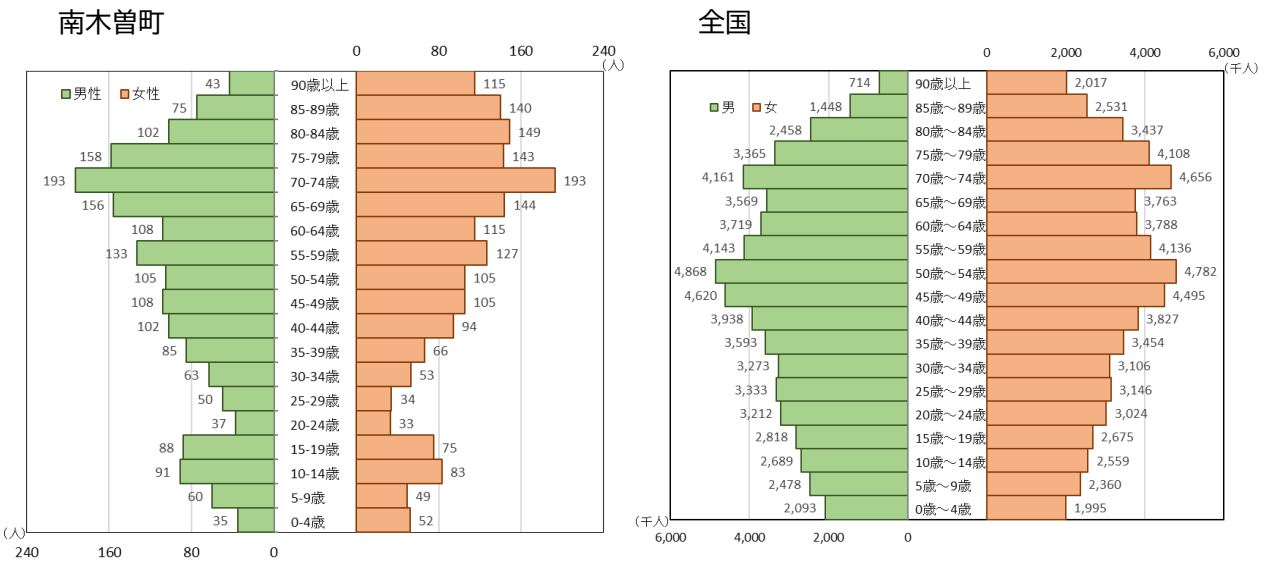


出典：国勢調査

（3） 人口ピラミッド

年齢別の人口を全国と比較すると、当町は 20～30 歳代の人口が極端に少なく、進学や就職等による若い世代の流出が顕著となっています。一方、70～74 歳をピークに高齢者人口が多くなっており、高齢化が進んでいる状況です。

図表 5 南木曽町と全国の人口ピラミッドの比較

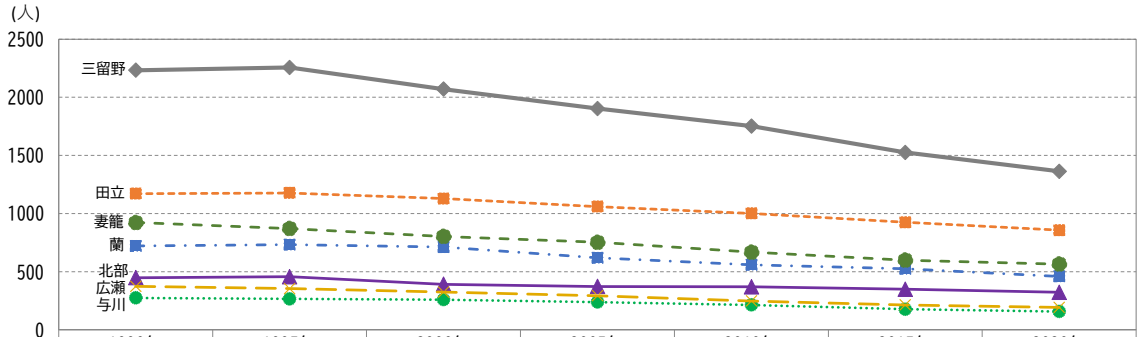


出典：全国　2023 年　総務省　人口推計（2023 年 10 月 1 日）
長野県　2023 年　毎月人口異動調査（2023 年 10 月 1 日）

（4） 地区別人口の推移

地区別人口の推移をみると、どの地区もここ 30 年で 3～5 割程度人口が減少しています。最も減少率が大きいのは広瀬地区で、30 年前の半数近くまで減少しています。

図表 6 地区別人口の推移



	1990年	1995年	2000年	2005年	2010年	2015年	2020年
与川	274	266	259	238	214	177	157
北部	448	456	391	372	369	349	322
三留野	2,232	2,256	2,070	1,903	1,752	1,525	1,363
蘭	721	732	711	619	558	524	459
広瀬	373	354	324	293	248	214	192
田立	1,171	1,177	1,129	1,060	1,001	925	857
妻籠	923	871	803	753	668	599	565

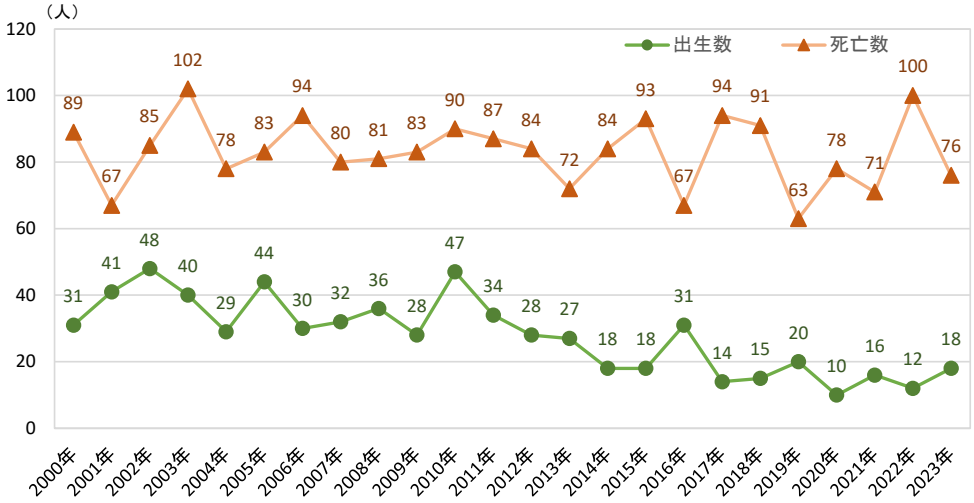
出典：国勢調査　小地域集計　（総務省統計局）

（５） 自然動態の状況

① 自然動態

自然動態は、死亡数が出生数を上回って推移しています。出生数は減少が続いており、2017 年以降は 20 人以下となっています。死亡数は年によって増減がみられますが、60～100 人程度で推移しています。

図表 7 出生数と死亡数の推計

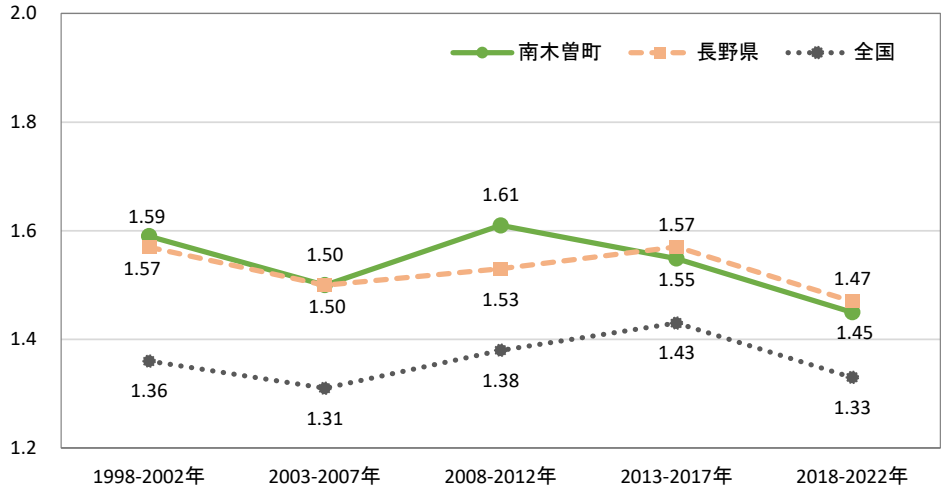


出典：厚生労働省　人口動態統計

② 合計特殊出生率の推移

合計特殊出生率[1]は、おおむね長野県を上回る値で推移していましたが、2013 年以降は減少しています。

図表 8 合計特殊出生率の推計



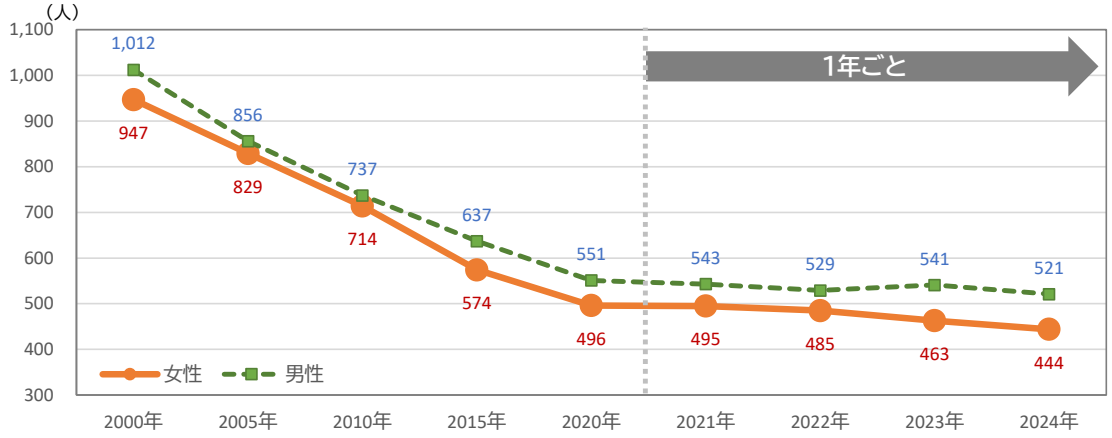
出典：厚生労働省「人口動態保健所・市区町村別統計（人口動態統計特殊報告）」

[1] 合計特殊出生率
1 人の女性が生涯に何人の子供を産むかを表す値。各年齢（15～49 歳）の女性の出生率を合計したもの。

③　15～49 歳男女別人口の推移

15 歳～49 歳の男女別人口の推移をみると、男女ともに減少し続けています。2020 年から 2024 年までの５年間では、女性の方が大きく減少しています。

図表 9　15 歳～49 歳の男女別人口の推移と推計



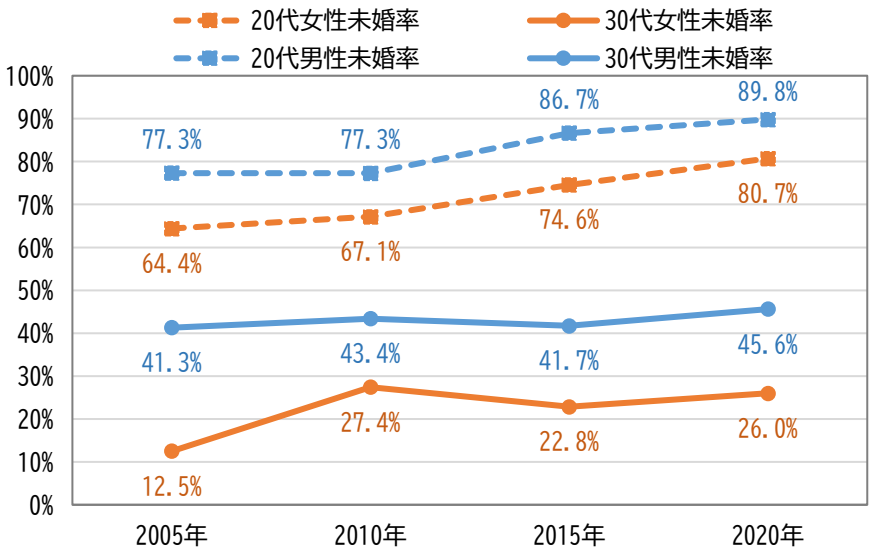
出典：2020 年まで国勢調査
2021 年から毎月人口異動調査（4 月 1 日時点）

（6）　社会動態の状況

①　20 代･30 代の未婚率

20 代と 30 代の未婚率は男女ともに増加傾向にあります。2020 年は、20 代は男女ともに 80%以上、30 代は男性の 45.6%、女性の 26.0%が未婚となっています。

図表 10　未婚率の推移

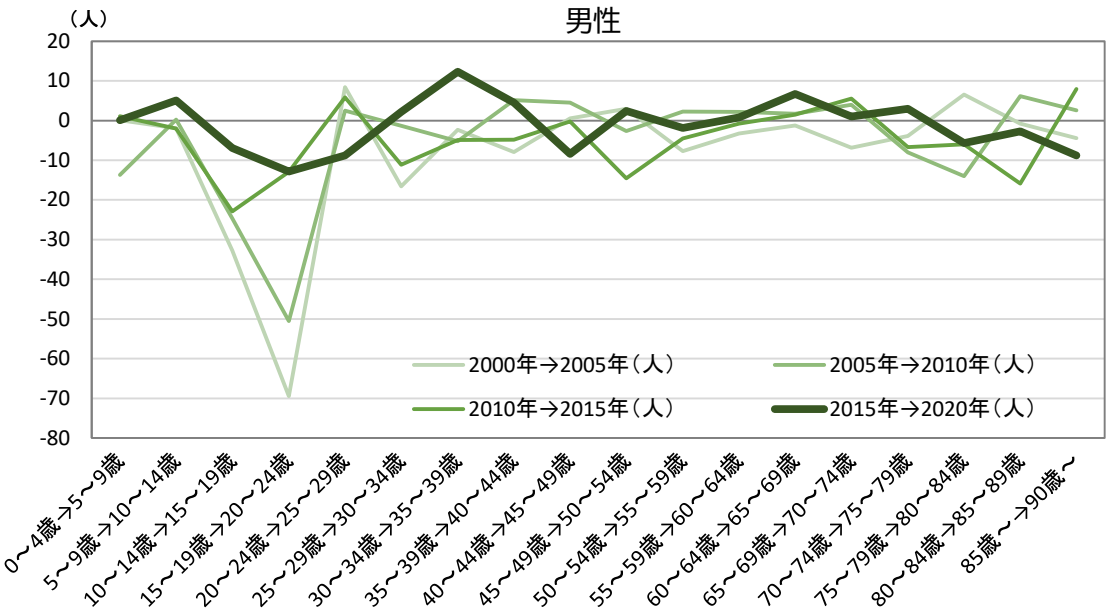


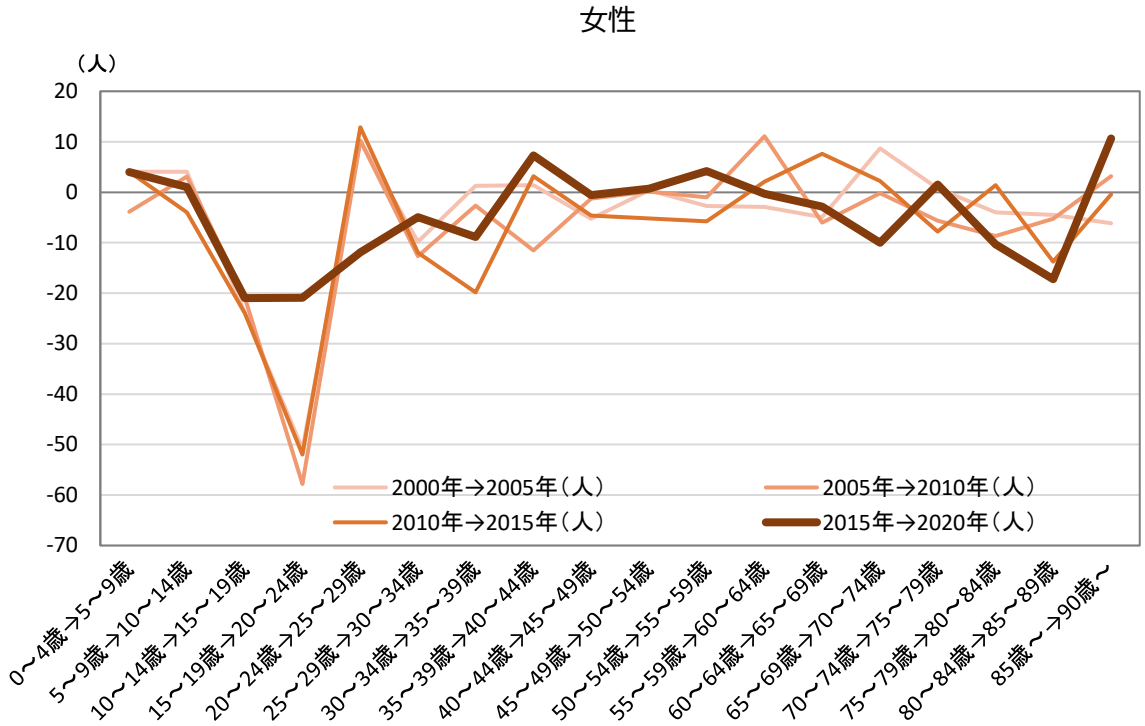
出典：国勢調査

② 年齢階級別の社会動態の推移

過去 20 年の変化をみると、10 代後半から 20 代前半にかけて転出超過となる傾向は変わっていません。最新の 2015 年～2020 年の純移動数は、男女ともに、過去に比べて転出数が少なくなっており、それだけ人口減少が進んでいるといえます。また、従来は 20 代前半から 20 代後半のＵターン世代で転入超過がみられましたが、最新値では転出超過となっています。

図表 11 社会動態の推移



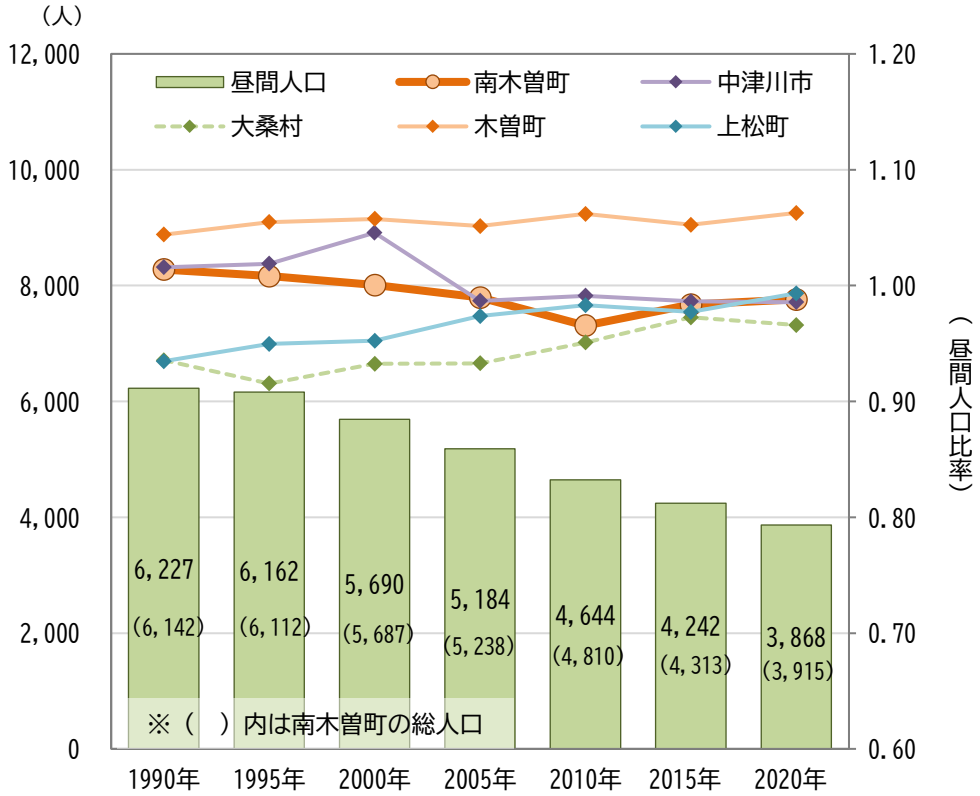


出典：総務省「国勢調査」、厚生労働省「都道府県別生命表」に基づくデジタル田園都市国家構想実現会議事務局作成

③ 昼間人口

南木曽町の昼間人口は、総人口と同様に減少傾向にあり、2020 年は 4,000 人を下回っています。昼間人口比率[2]は 2000 年頃を境に 1 を割り込み、昼間に町内で働く人の割合が少なくなっているとみられます。

図表 12 昼間人口の推移



出典：国勢調査

[2] 昼間人口比率
夜間人口 100 人当たりの昼間人口の割合。

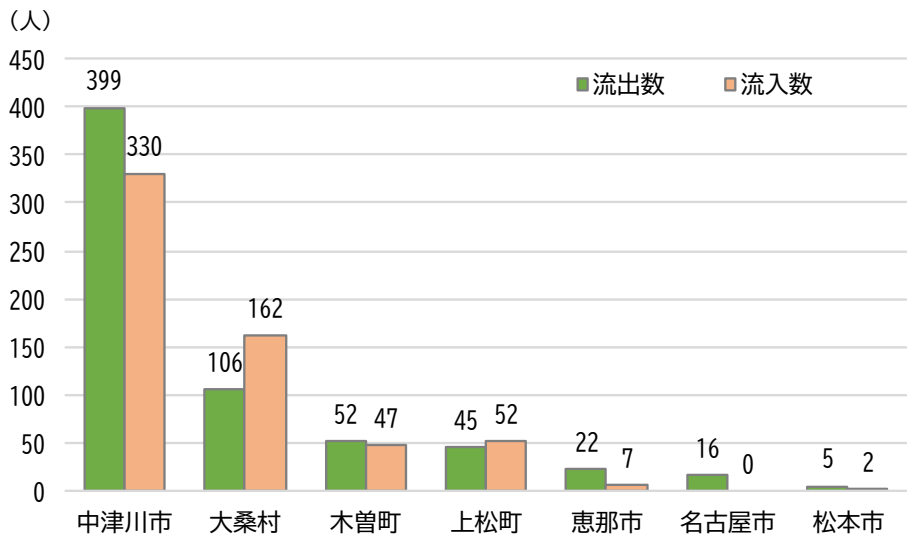
④　通勤・通学による流入・流出状況

通勤・通学を合わせた流出・流入人口をみると、中津川市、大桑村、木曽町、上松町等との間で流入・流出する人口が多くなっています。流出・流入のいずれも中津川市との移動が最も多く、本町と中津川市が密接な関係にあることが分かります。中津川市との間では流入数より流出数が多くなっており、2020 年時点でその差は 69 人となっています。

通勤による異動では、中津川市が最も多く（388 人）、次いで大桑村、上松町、木曽町、恵那市の順となっています。また町外から南木曽町に通勤・通学する人は、中津川市からが最も多く（294 人）、次いで大桑村、上松町、木曽町の順となっています。

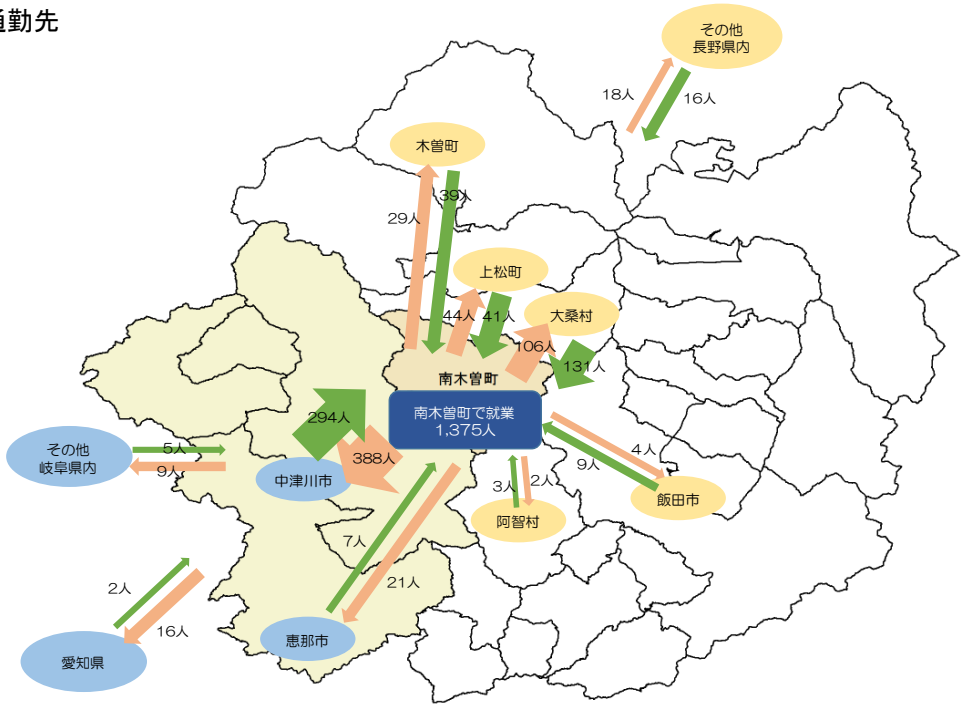
通学状況を見ると、南木曽町から木曽町へ学びに行く人が多い一方、中津川市、大桑村、上松町、木曽町から南木曽町へ学びに来ている人も一定数います。

図表 13　通勤・通学による流出・流入人口

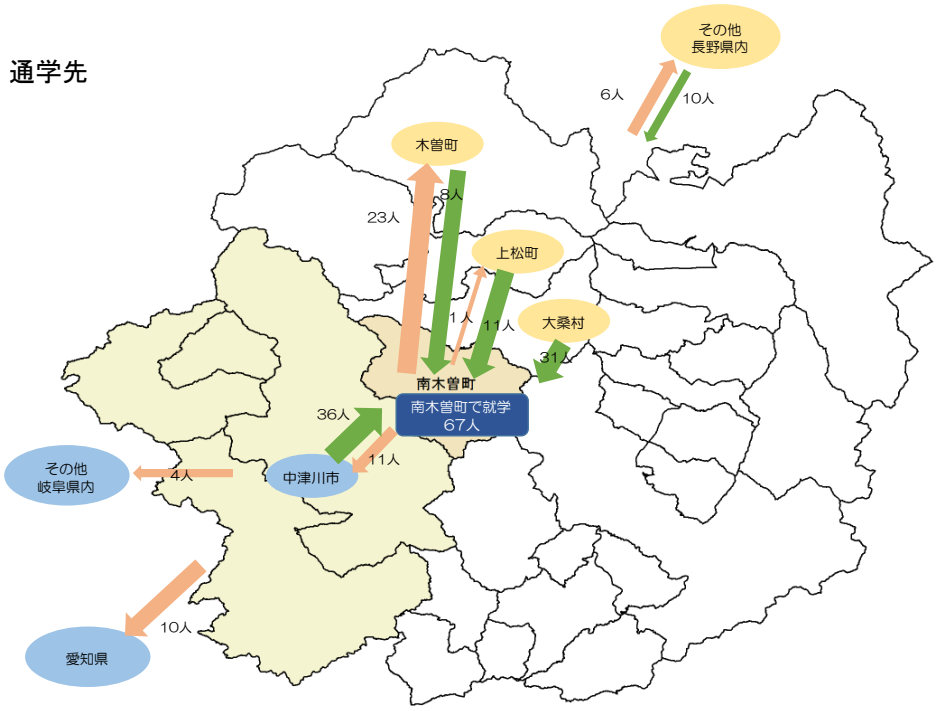


出典：国勢調査（2020 年）

通勤先



通学先



出典：国勢調査（2020 年）

2. 将来人口推計

（1） 将来の人口構造

① 年齢３区分別の人口

国立社会保障・人口問題研究所（以下、社人研）の推計によれば、南木曽町の将来人口は減少傾向にあり、2050 年は 2,000 人を下回り、2020 年からの比較で半減する予測です。

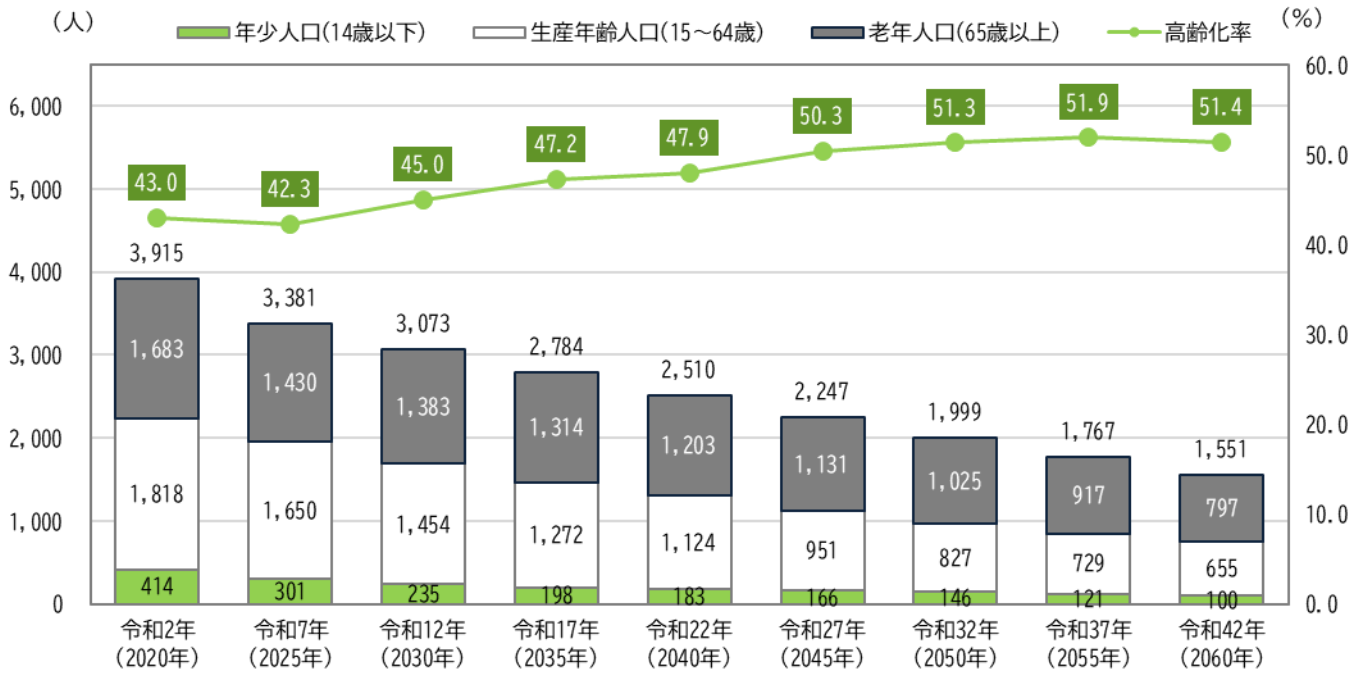
高齢化率は 2045 年に 50.3%となり、2055 年に 51.9%とピークを迎えます。

高齢者人口は、2020 年は、1,683 人でしたが、2060 年には、797 人と半減する予測となっています。

生産年齢人口は、2020 年は 1,818 人でしたが、2060 年には、655 人と３分の１に減少する予測となっています。

年少人口は、2020 年は 414 人でしたが、2060 年には、100 人と４分の１に減少する予測となっています。

図表 14 年齢３区分の人口推計



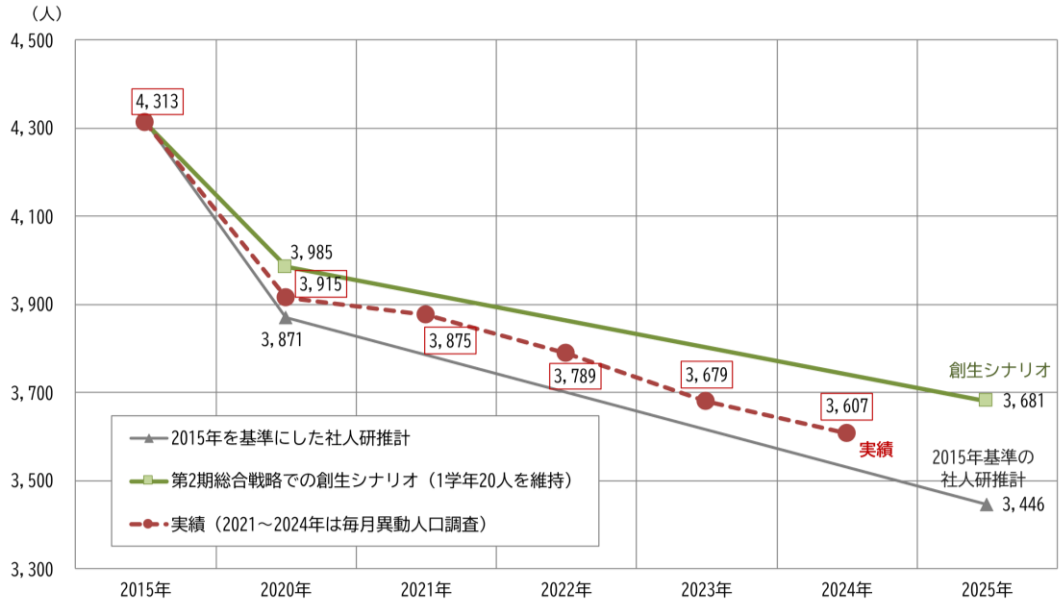
出典：令和２年は国勢調査
令和７年以降は国立社会保障・人口問題研究所「将来推計人口」令和５年推計

（２） 将来人口の推計・分析

① 実績人口の分析

第２期総合戦略の計画期間（2020～2024 年）における実績人口は、創生シナリオを下回ったものの、社人研推計（2015 年基準推計）を上回って推移しています。

図表 15 2015 年を基準とした推計人口の実績人口の比較

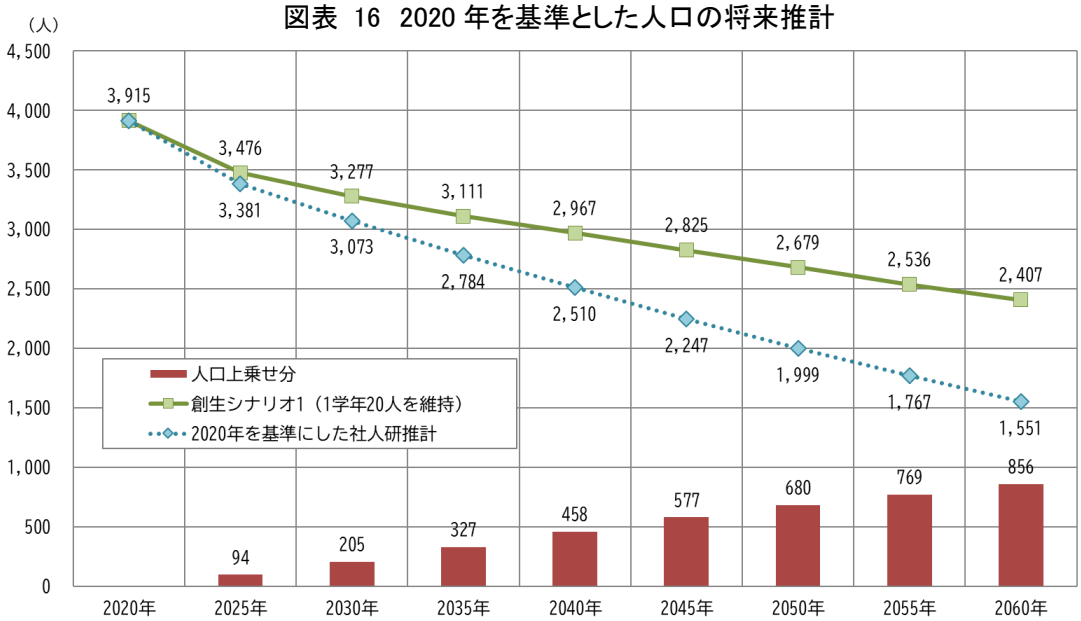


出典：社人研推計および独自推計

② 推計と目標人口

最新の社人研推計（2020 年基準）では、町の人口は 2040 年に 2,510 人、2060 年に 1,551 人になると推計されています。引き続き「2060 年に５～14 歳人口 1 学年 20 人を維持できる人口」を維持するための創生シナリオに基づき、独自推計した結果では、2040 年に 2,967 人、2060 年に 2,407 人を目指すことになります。

図表 16 2020 年を基準とした人口の将来推計



出典：社人研推計および独自推計

第3章　地産業・雇用の状況

1. 南木曽町の就業者の状況

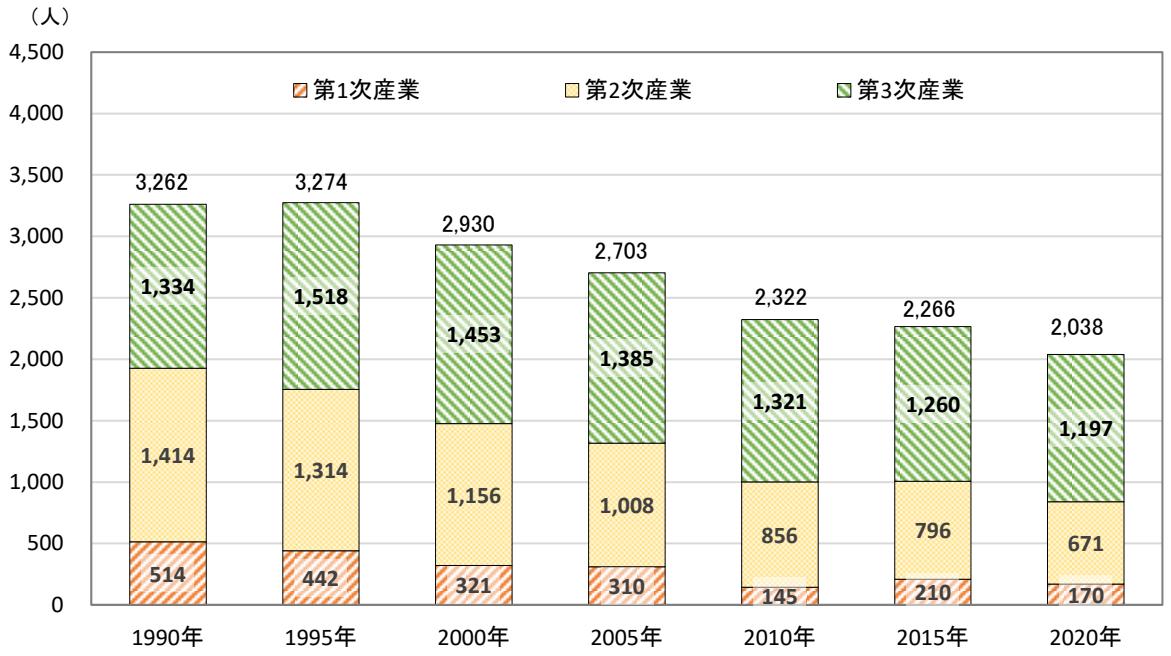
（1） 就業・雇用の状況

① 産業別就業人口の推移

就業人口は、1990 年に 3,262 人でしたが、2020 年には 1,224 人（37.5%）減少し、2,038 人になっています。

産業別では、第 1 次産業は、1990 年に 514 人でしたが、2020 年には 344 人（66.9%）減少し 170 人になっています。第２次産業は 1990 年に 1,414 人でしたが、2020 年には 743 人（52.5%）減少し 671 人になっています。第３次産業は 1990 年に 1,334 人でしたが、137 人（10.3%）減少し、1,197 人になっています。

図表 17 産業別人口の推移

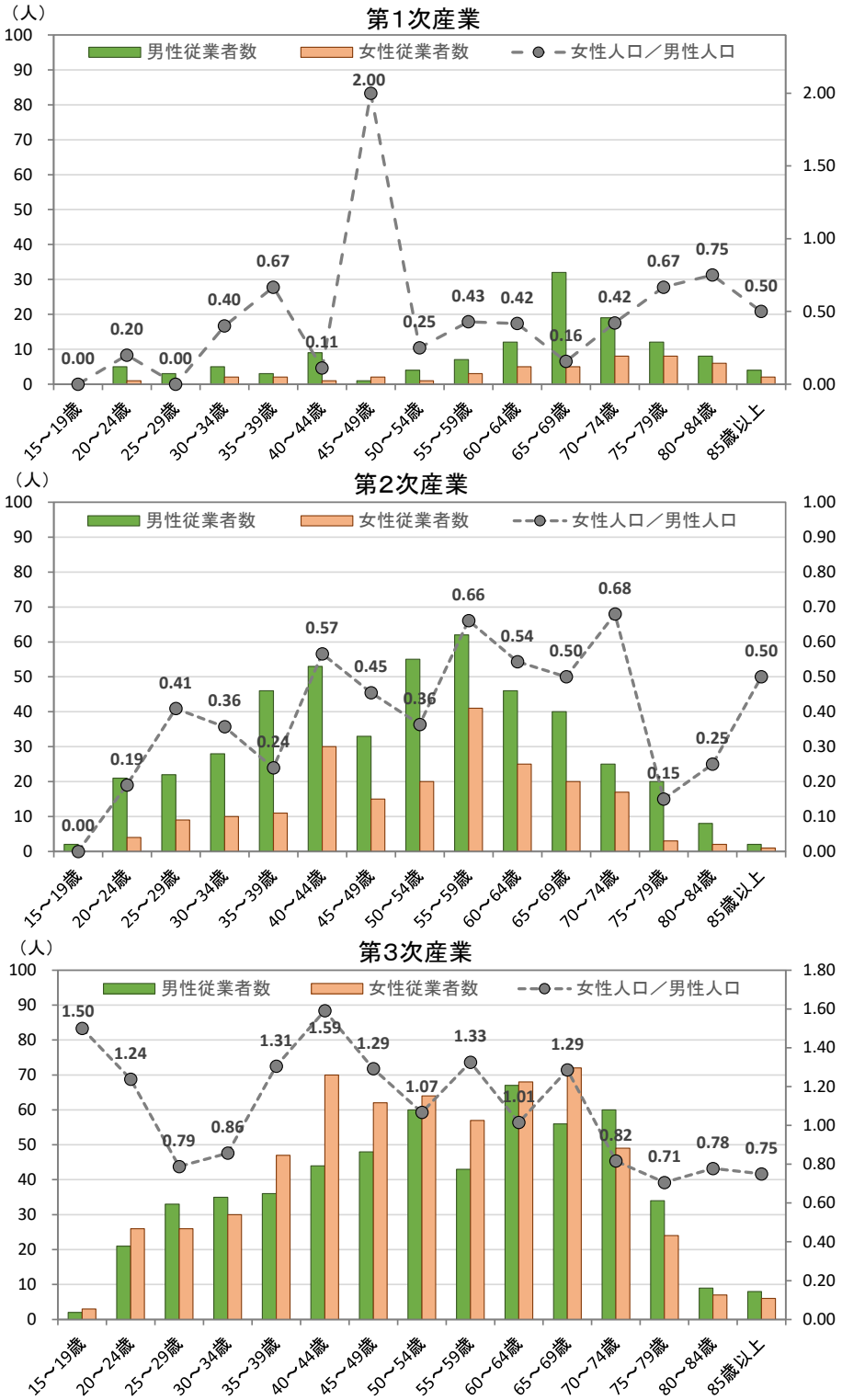


出典：国勢調査

② 従業者数の状況

第１次産業は従業者が少なく、高齢化が進んでいることがわかります。第２次産業の従業者の男女比では男性従業者が多い傾向がありますが、各世代で類似した構成割合となっています。第３次産業は最も従業員数が多く、30 代後半～60 代は女性従業者の方が多くなっています。

図表 18 産業別･5 歳区分別･性別の就業人口

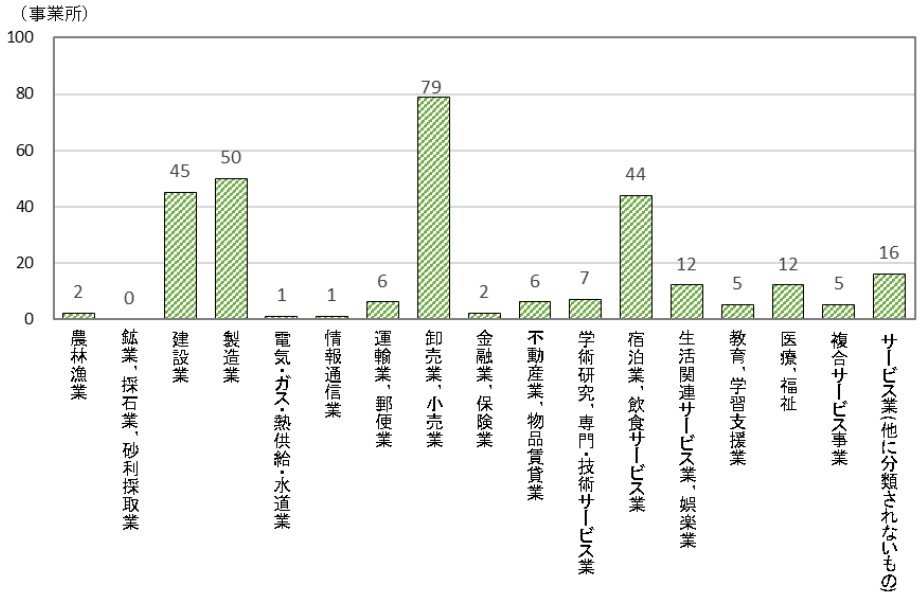


出典：国勢調査（2020 年）

③　事業所数と従業員数

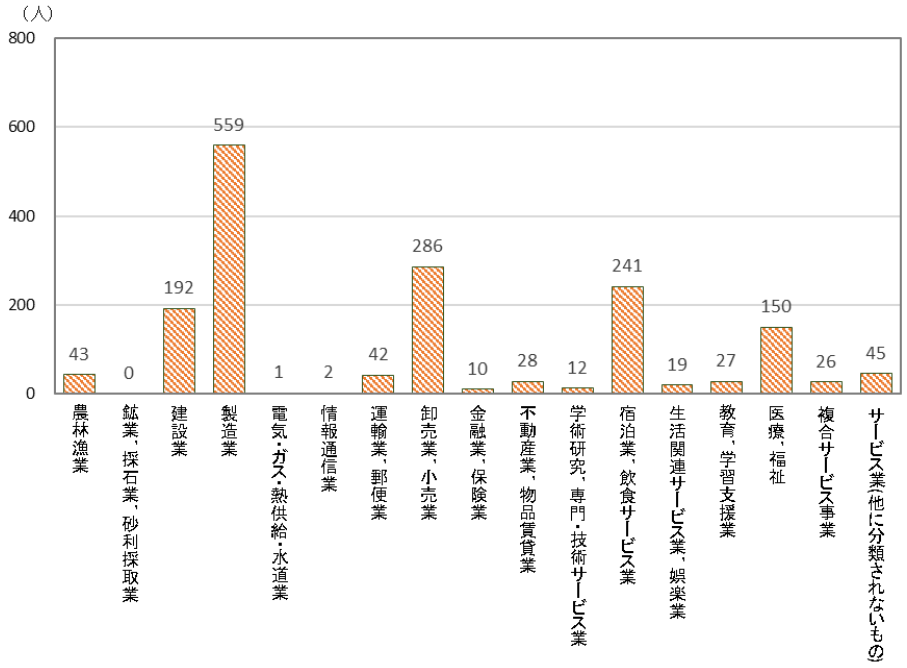
町の産業をより詳細にみていくと、事業所数では「卸売・小売業」、「製造業」、「建設業」、「宿泊・飲食サービス業」が多くなっています。従業員数では「製造業」、「卸売・小売業」、「宿泊・飲食サービス業」が多くなっており、これらの産業は多くの雇用を生み出しているといえます。また「製造業」には大規模事業者が多いのに対し「卸売・小売業」、「建設業」等は比較的小規模な事業者が多いといえます。

図表 19　事業種別事業所数



出典：2021 年経済センサス活動調査

図表 20　事業種別従業員数



出典：2021 年経済センサス活動調査

2. 南木曽町の産業の状況

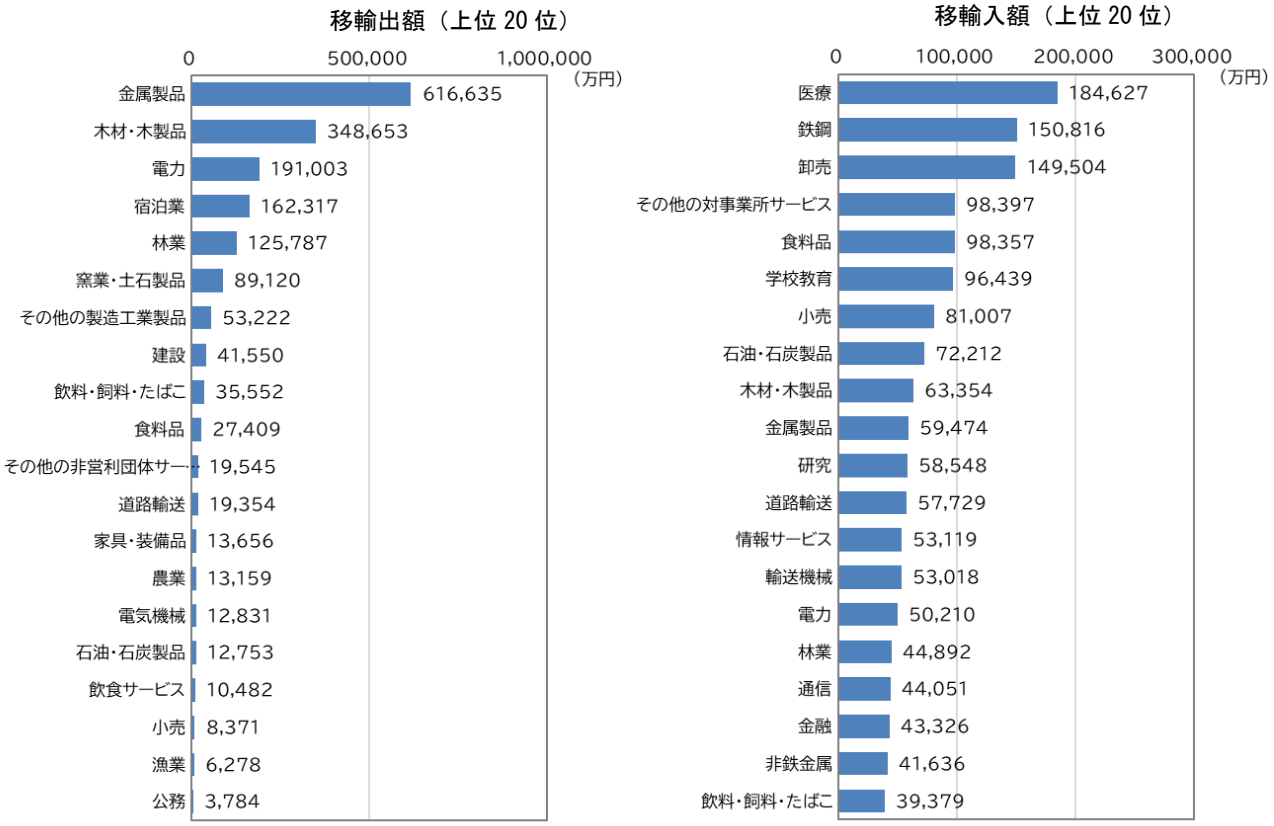
（1） 産業連関分析

長野県産業連関表[3]（2015 年版）から南木曽町産業連関表を作成し、産業連関分析を行いました。もとになるデータが古く、現在の町の産業構造を正確に反映できない可能性があるため、参考値とします。

① 移輸出･移輸入の状況

町で移輸出[4]額が最も多いのは「金属製品」、次いで「木材・木製品」となっており、移輸入[5]額が最も多いのは「医療」、次いで「鉄鋼」となっています。

図表 21 移輸出入額



長野県産業連関表（2015 年）をもとに作成

---

[3] 産業連関表
一定期間内にそれぞれの産業部門が生産した財・サービスがどのように配分されたかを統計数値によって表にしたもの。

[4] 移輸出
町外の需要を賄うために供給される財・サービスを移出、国外の需要を賄うために供給される財・サービスを輸出といい、両者を合わせて移輸出という。なお、移輸出額を町内生産額で除したものが移輸出率である。

[5] 移輸入
町内の需要を賄うために、町外から調達する財・サービスのことを移入、国外から調達する財・サービスのことを輸入といい、両者をあわせて移輸入という。なお、移輸入額を町内需要額で除したものが移輸入率である。

② 町内生産額と移輸出額

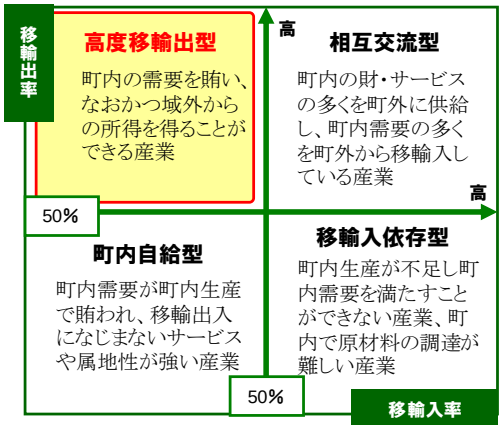
生産額、移輸出額の双方が大きい産業は「金属製品」、次いで「木材・木製品」となっています。「宿泊業」「林業」も一定規模となっており、町の産業は製造業、林業関連産業、観光関連産業に支えられる構造にあると考えられます。

図表 22 移輸出額と町内生産額の相対表

長野県産業連関表（2015 年）をもとに作成

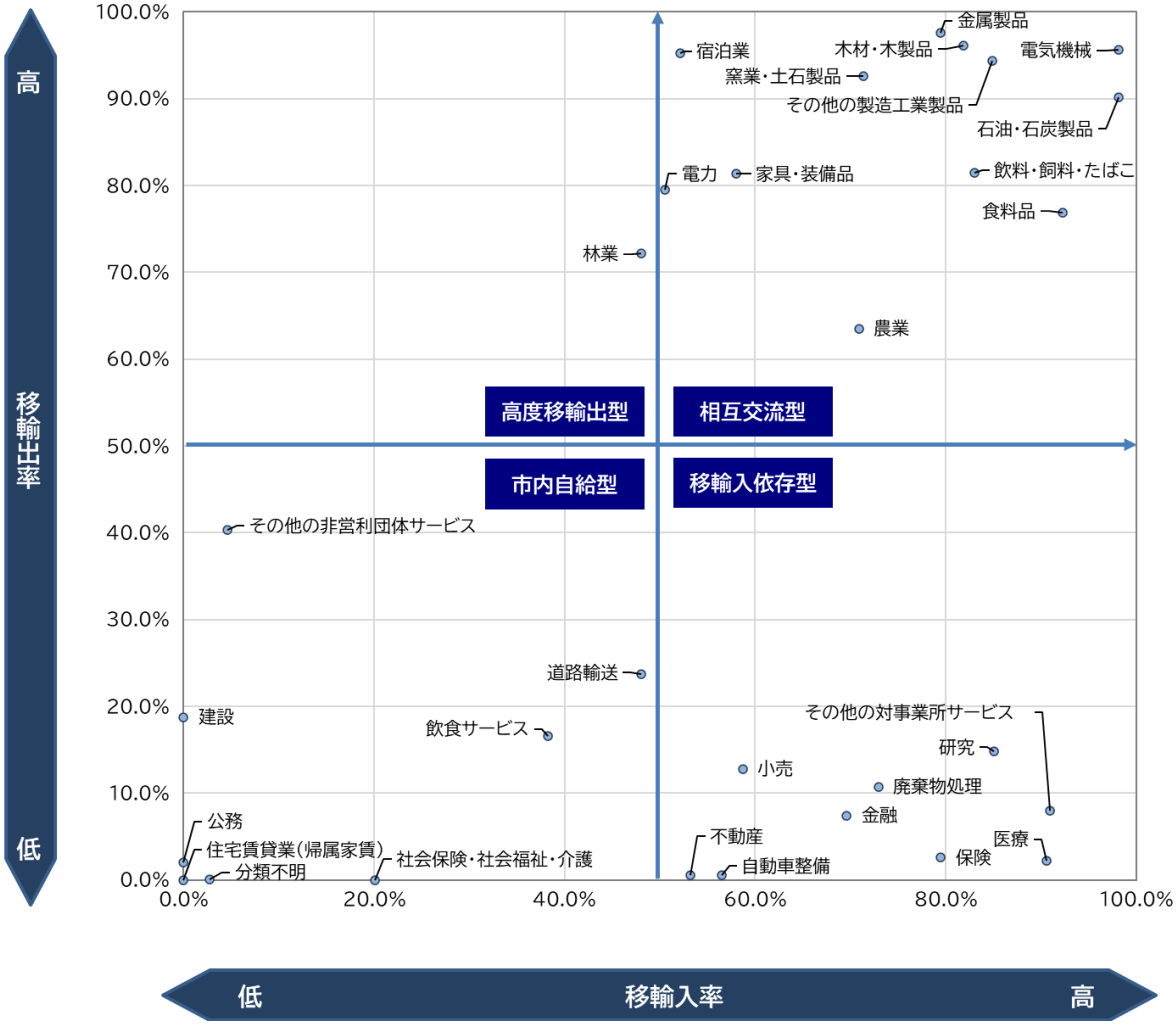
③　移輸出率と移輸入率

一般的に産業振興の方向性は、生産額を向上させ、外貨を稼ぐことが最も優先される「高度移輸出型産業」、次いで、域外調達率を下げ（自給率を上げ）、生産額を向上させる「相互交流型産業」といった施策が考えられます。



本町では、製造業、観光関連産業、林業関連産業などが外貨を獲得しやすい産業となっています。特に、観光関連産業（宿泊、小売、飲食サービスなど）や林業関連産業（林業、木材・木製品など）は、域内調達の増加、商品開発や高付加価値化などによる生産額向上をはかることが見込めるため、産業振興においてはこうした方向性による施策が望ましいと考えられます。

図表 23　移輸出率と移輸入率の相対表



長野県産業連関表（2015 年）をもとに作成

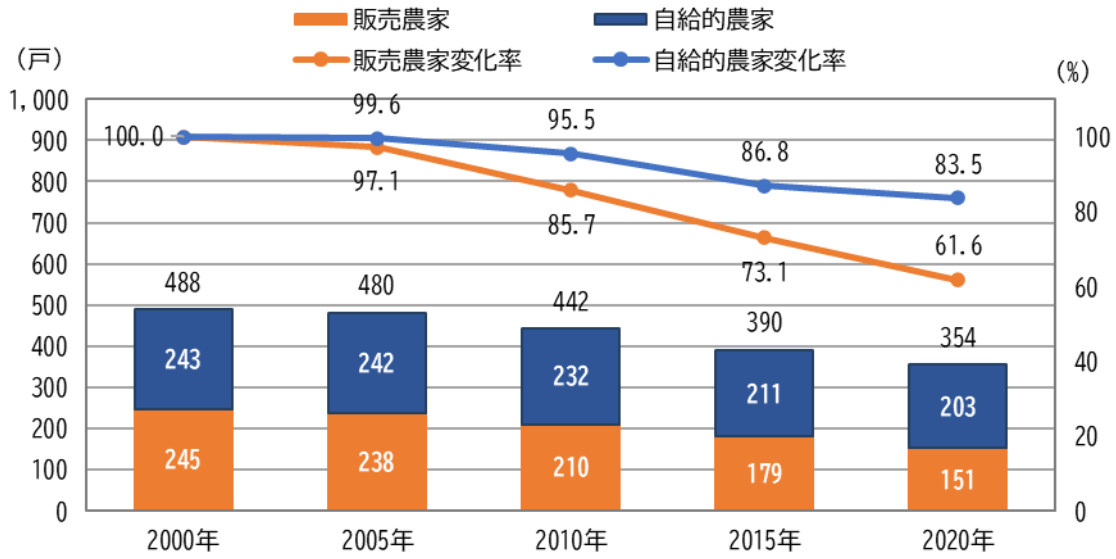
（２） 産業別の状況

① 農林業

（ア） 販売農家数、農業就業人口の推移

南木曽町の農家数は 2000 年から 2020 年で 134 件（27.5%）減少しており、特に販売農家数は 94 件（38.4%）減少となっています。

図表 24 南木曽町における農家数の推移

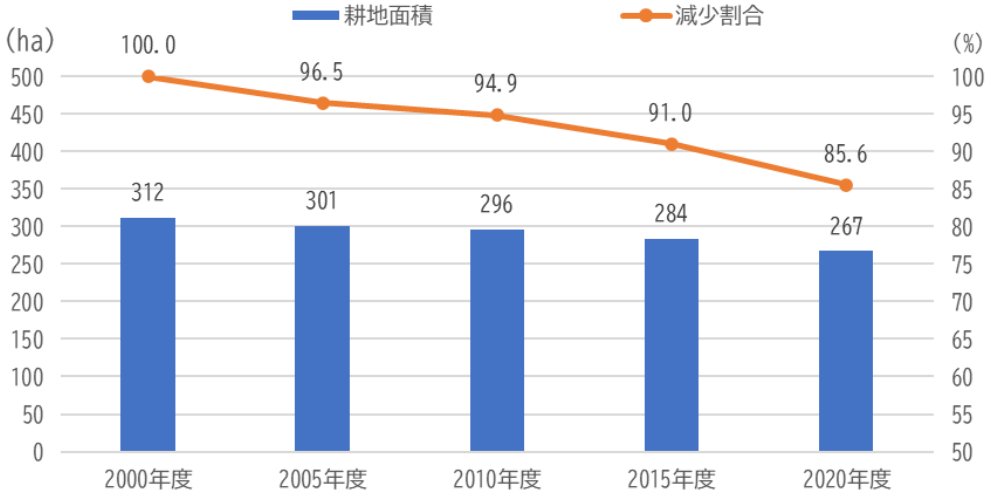


出典：農林水産省「農業センサス」

（イ） 販売農家の耕地面積の推移

南木曽町の販売農家の耕作地面積は 2000 年から 2020 年で 45ha（14.4%）減少しており、販売農家数に比べ、耕作面積の減少割合は小さくなっています。

図表 25 南木曽町における販売農家の耕地面積の推移

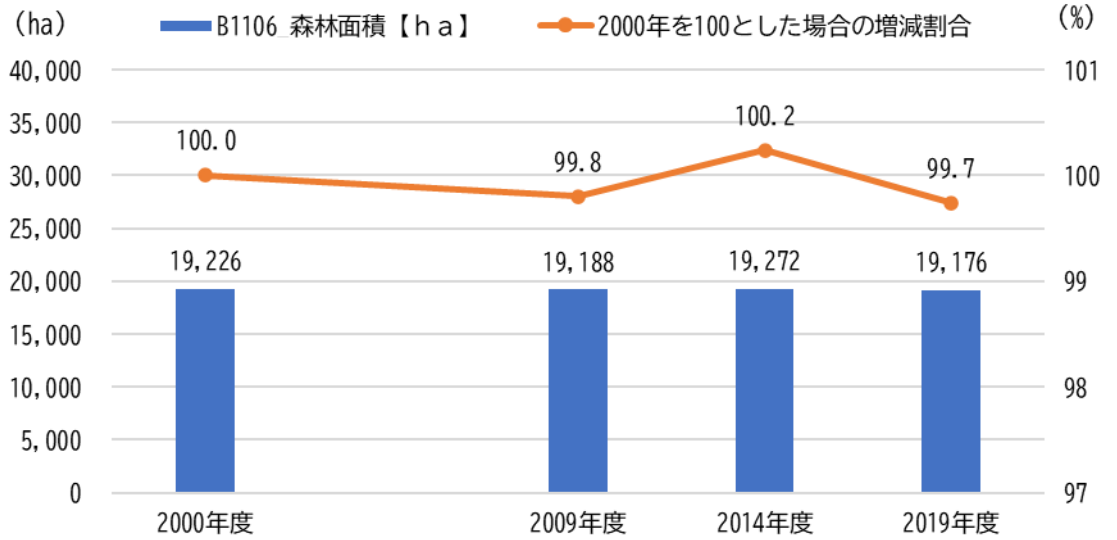


出典：農林水産省「農業センサス」

（ウ） 森林面積の推移

南木曽町の森林面積はほとんど変わっていません。

図表 26 南木曽町における森林面積の推移



出典：農林水産省「農業センサス」

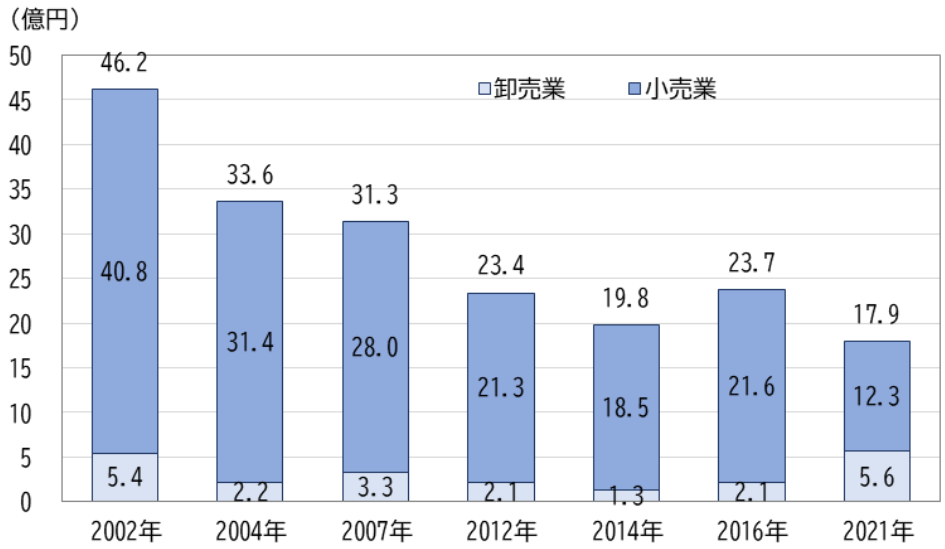
② 商業

（ア） 卸売業･小売業の年間商品販売額

卸売業・小売業の年間商品販売額は、2002 年で 46.2 億円でしたが、2021 年では 17.9 億円と 28.3 億円（61.3%）減少しています。内訳をみると、小売業が、2002 年に 5.4 億円で、2021 年には 5.6 億円となっています。

卸売業は、2002 年に 40.8 億円で、2021 年では 12.3 億円となっています。

図表 27 卸売業･小売業の年間商品販売額

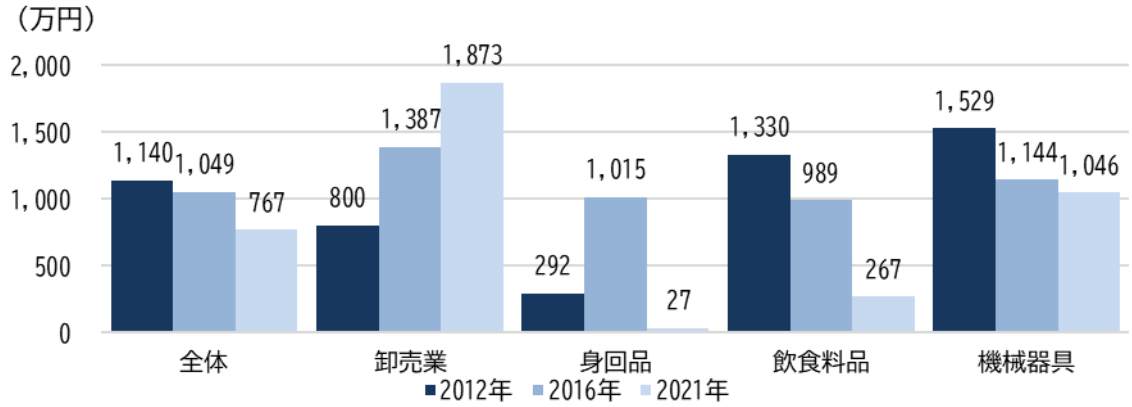


出典：経済産業省「経済センサス」

（イ） 従業者一人当たりの年間商品販売額

従業者一人当たりの年間商品販売額は、卸売業が 2012 年の 800 万円から 2021 年に 1,873 万円と 1,073 万円増加しています。変化が大きかったのは、身回品で 2012 年の 292 万円から 2016 年に 1,015 万円まで増加したものの、2021 年には 27 万円となっています。飲食料品の小売については、2012 年では 1,330 万円だったものが、2021 年には 267 万円となっています。

図表 28 従業者一人当たりの卸売業・小売業の年間商品販売額

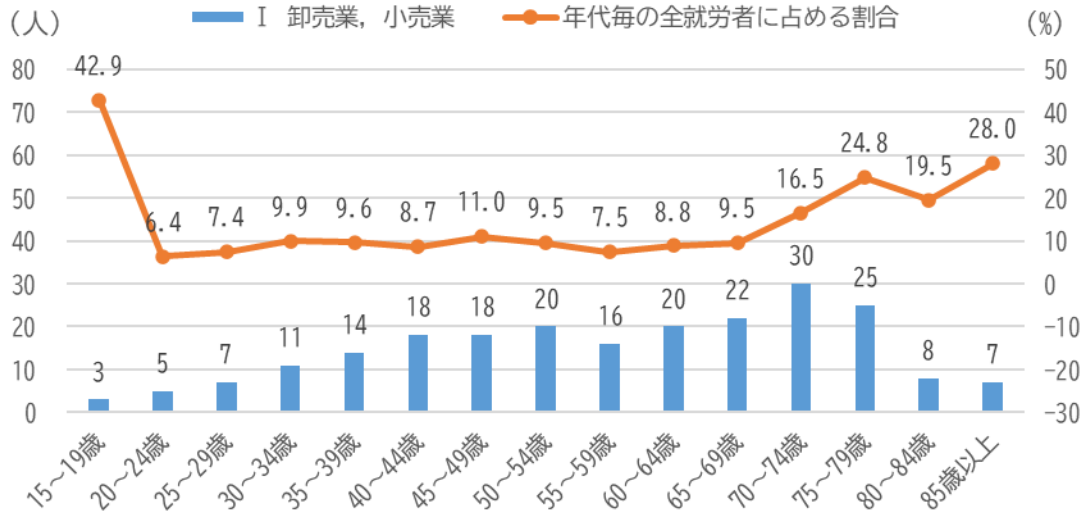


出典：経済産業省「経済センサス」

（ウ） 従業者数

南木曽町の卸売業・小売業に従事する者の年齢層は、70～74 歳が 30 人で、同年代の就労者の 16.5%となっています。また 75～79 歳では、就労者の 24.8%となっており、約４人に１人が卸売業・小売業に従事しています。

図表 29 卸売業・小売業の年代別従業者数



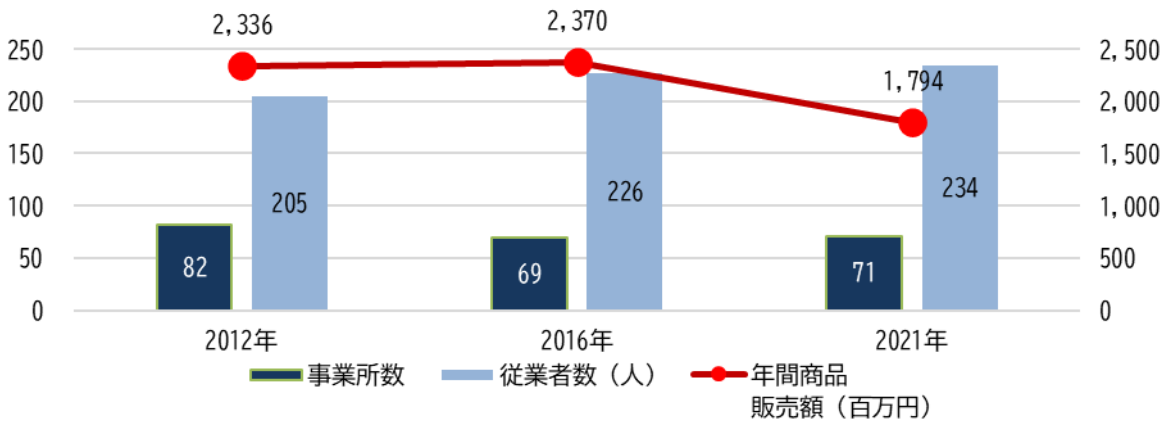
出典：令和２年国勢調査　就業状態等基本集計

（エ） 事業所数と年間商品販売額

小売業の事業所数は、減少傾向にある一方、従業者数は増加傾向にあります。また年間商品販売額が減少していますが、2021 年はコロナ禍の影響によるものと考えられます。

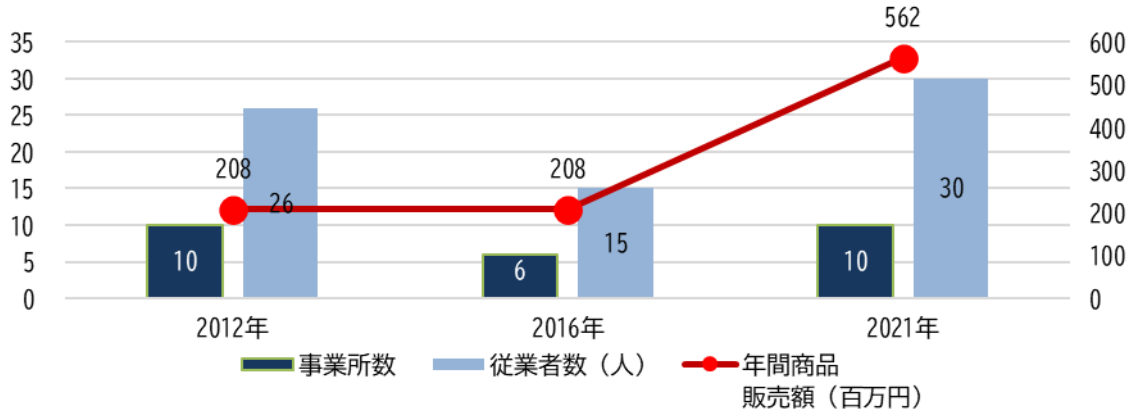
卸売業の事業所数や従業者数は、2016 年に減少しましたが、2021 年には 2012 年の水準に戻っています。一方、年間商品販売額は大きく増加傾向にあります。

図表 30 小売業の事業所数と従業者数、年間商品販売額の推移



出典：経済産業省「経済センサス」

図表 31 卸売業の事業所数と従業者数、年間商品販売額の推移

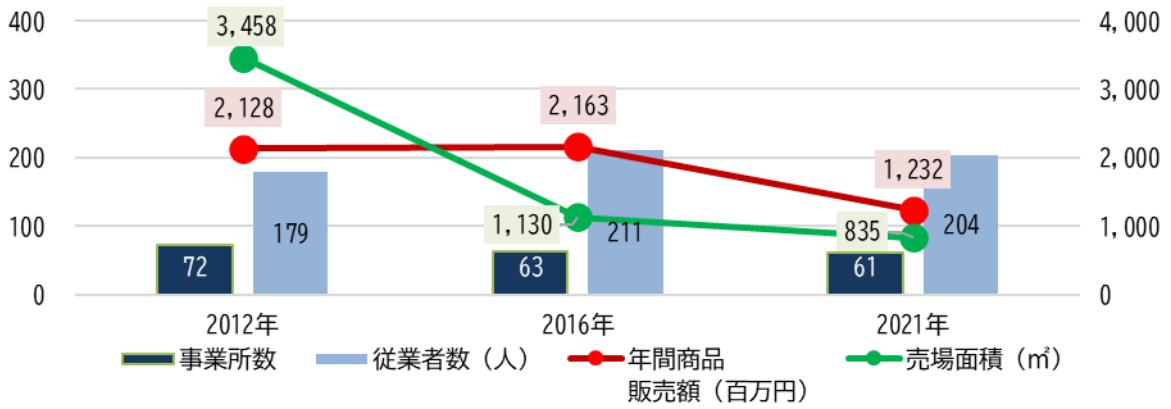


出典：経済産業省「経済センサス」

（オ） 小売業の業種別の状況

小売業全体の事業所数は 2012 年～2021 年の間で 11 件減少しており、従業者数は 2016 年に 200 人台に増加しています。また、売場面積は 2012 年～2016 年で 67.3%減少しており、年間商品販売額は 2016 年～2021 年で 9.3 億円余（43.0%）減少しています。

図表 32 小売業の事業所数と従業者数、年間商品販売額の推移



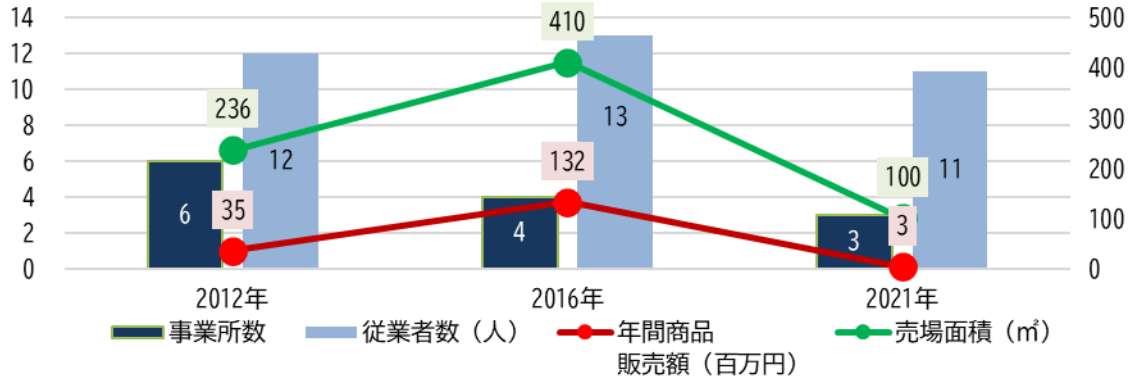
出典：経済産業省「経済センサス」

（カ） 物･衣服･身の回り品小売業の状況

事業所数は 2012 年～2021 年の間で 3 件減少しており半減しています。さらに従業者数は、2016 年に 1 人増加しましたが、2021 年には 2 人減少しています。また、売場面積が 2012 年～2016 年で 174m² 増加しましたが、2021 年には、310m² 減少し、2012 年との比較では 136㎡ の減少となっています。

年間商品販売額は 2012 年～2026 年で 35 億円から 132 億円へと 0.97 億円増加しましたが、2021 年には 300 万円になっています。

図表 33 織物･衣服･身の回り品小売業の事業所数と従業者数、年間商品販売額の推移

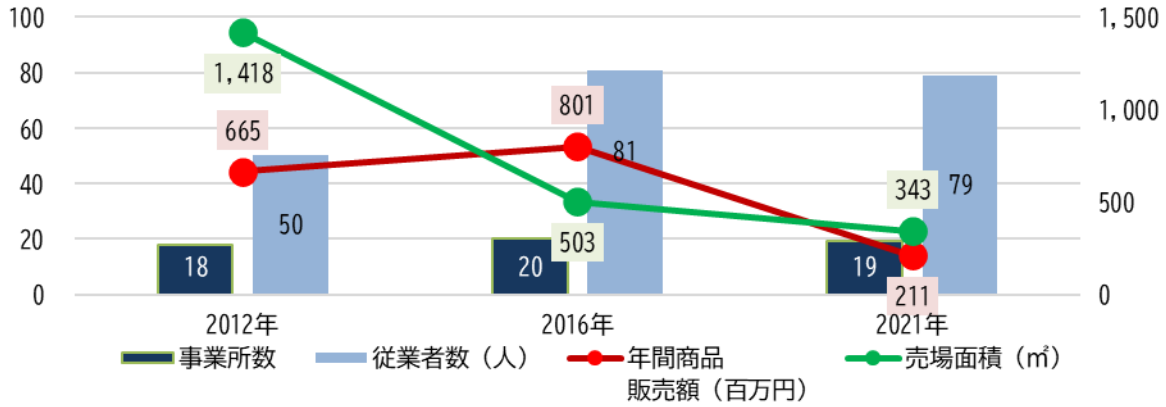


出典：経済産業省「経済センサス」

（キ）飲食料品小売業の状況

事業所数は 2012 年～2021 年の間で 1 件増加しています。従業者数は、2016 年に 31 人増加しましたが、2021 年には 2 人減少しています。また、売場面積が 2012 年～2016 年で 64.5%増加し、2021 年には、さらに 31.86%減少しています。2012 年との比較では 75.8%の減少となっています。年間商品販売額は 2016 年～2021 年で 1.36 億万円余（17.0%）増加し 8 億円を超えましたが、2021 年には 5.9 億円（17.0%）減少し、2.111 億円になっています。

図表 34 飲食料品小売業の事業所数と従業者数、年間商品販売額の推移

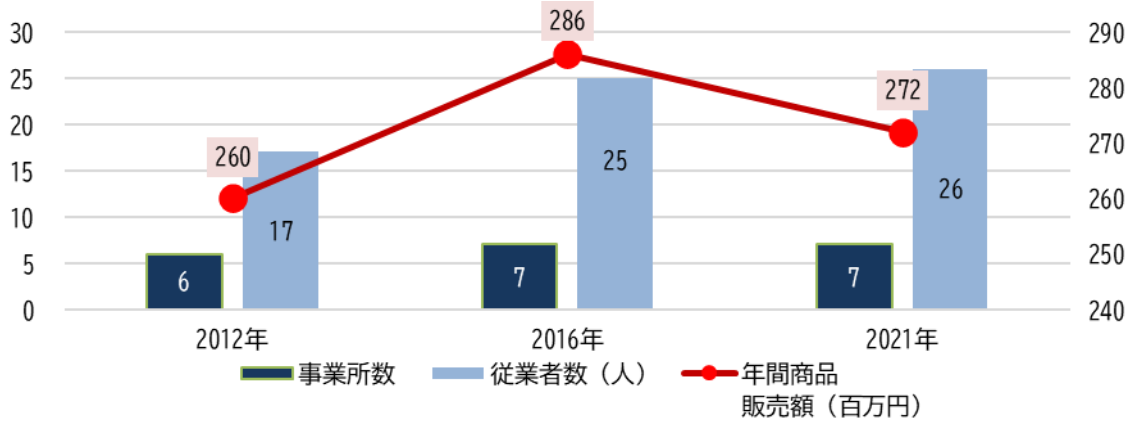


出典：経済産業省「経済センサス」

（ク）機械器具売業の小売業の状況

事業所数は 2012 年～2021 年の間で 1 件増加しています。従業者数は、2016 年に 8 人増加し、さらに 2021 年には 1 人増加しています。年間商品販売額は 2012 年～2016 年で 2,600 万円（9.1%）増加し 2.86 億円でしたが、2021 年には 1,400 万円（4.9%）減少し、2.72 億円になっています。

図表 35 機械器具売業の事業所数と従業者数、年間商品販売額の推移



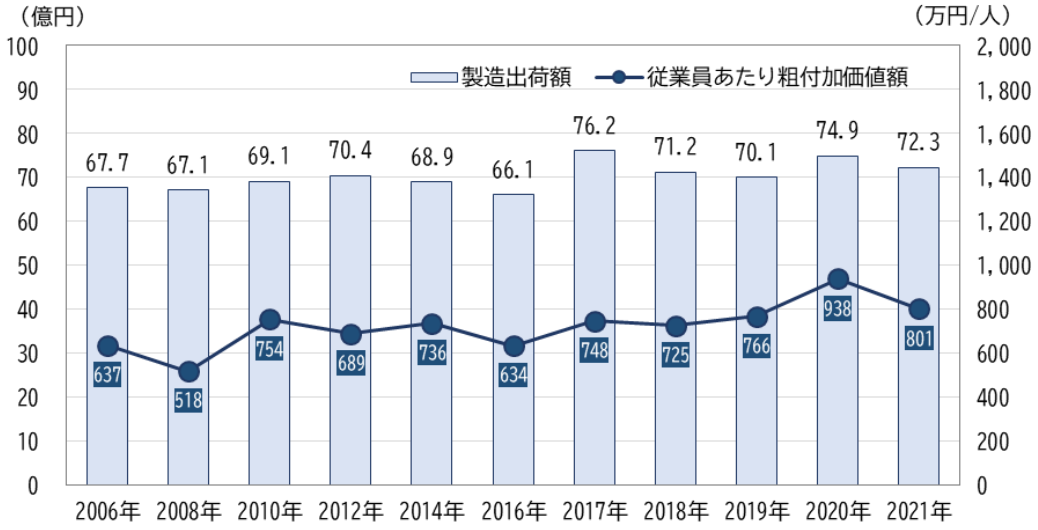
出典：経済産業省「経済センサス」

③ 製造業

（ア） 製造品出荷額等と粗付加価値の状況

南木曽町の従業者一人当たりの粗付加価値額は、2012 年～2021 年の 10 年間で 112 万円増加し、2021 年に 801 万円となっています。

図表 36 製造品出荷額等と粗付加価値額の推移

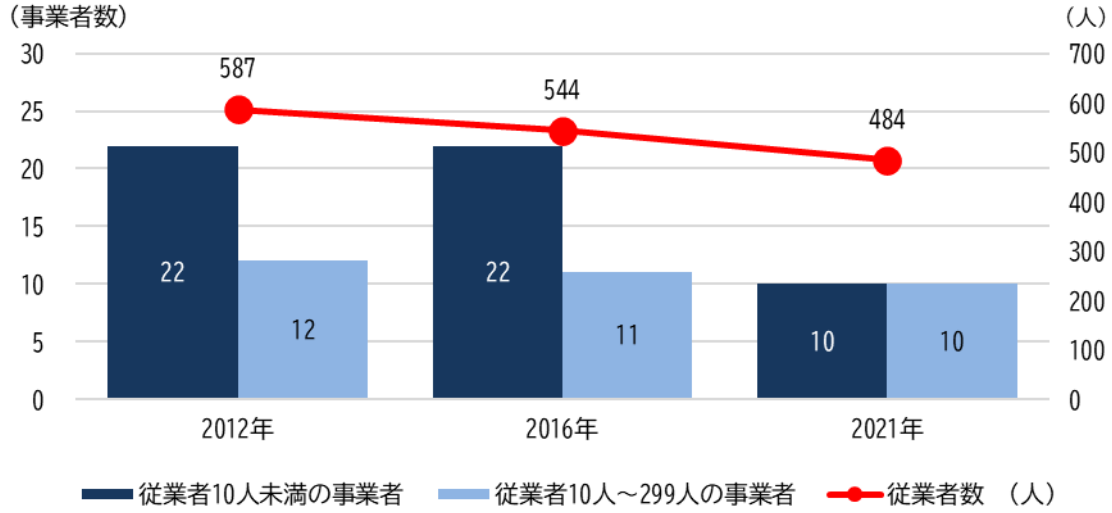


出典：工業統計調査、経済センサス活動調査

（イ） 事業者数と従業者数の状況

南木曽町の製造業の事業者数は、10 人未満の事業者数が 2016 年との比較で半減しており、10 人以上の事業者も各年で 1 社ずつ減少しています。従業者は 2012 年～2021 年で 103 人減少しています。

図表 37 製造業の従業者数別の事業者数と従業者数の推移

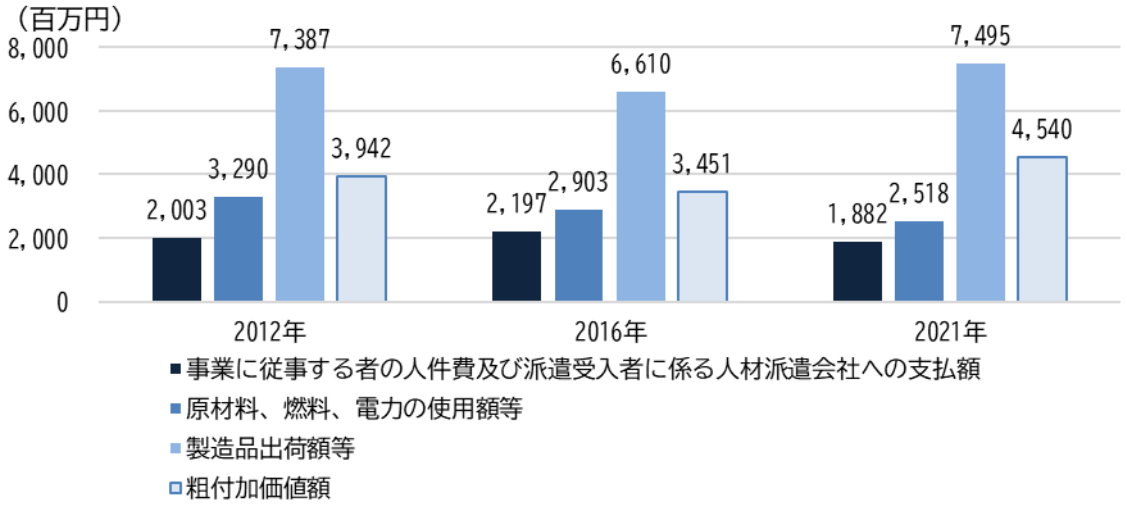


出典：経済センサス - 活動調査　製造業（地域別統計表データ）

（ウ） 人件費、原材料費、製造品出荷額および付加価値額の状況

人件費や原材料費が減少傾向にあり、製造品出荷額等が 10.08 億円増加したことから、粗付加価値額は 2012 年～2021 年で 5.98 億円増加しています。

図表 38 人件費、原材料費、製造品出荷額および付加価値額



出典：経済センサス - 活動調査　製造業（地域別統計表データ）

④ 観光

（ア） 観光入込客数の推移

「妻籠宿」は 2009 年までは 60 万人の入込客数がありましたが、2020 年から 3 年間のコロナ禍の影響を除けばおよそ半分の 30 万人まで減少しています。これは観光事業者の高齢化や後継者不足による観光事業者数の減少などが影響として考えられます。

「南木曽温泉郷」は 2008 年の約 6.5 万人から減少傾向にあり、2017 年には約 3.8 万人まで減少しましたが、2018 年には約 11.2 万人、2019 年には約 18.5 万人へと 4 倍程度増加しています。

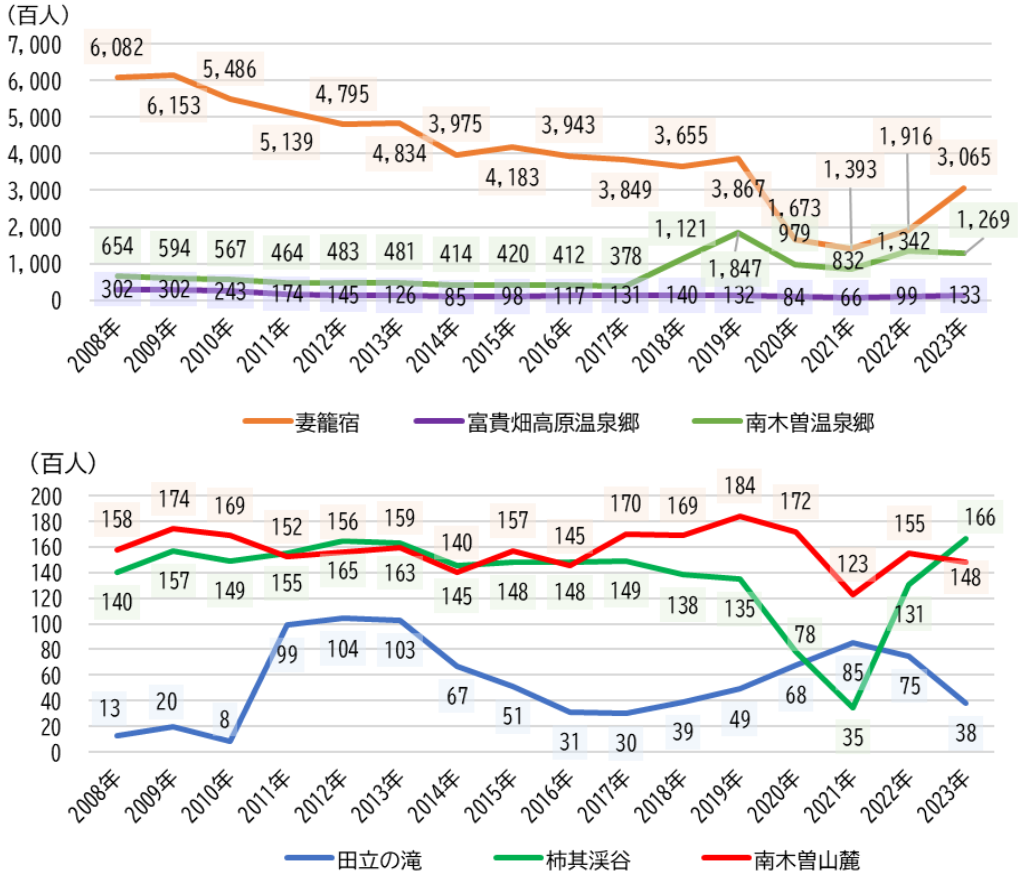
「富貴畑高原温泉郷」は、2009 年まで 3 万人の入込客数がありましたが、2014 年と 2015 年には 1 万人を割り込んでいます。その後コロナ禍の影響を除けば、2023 年には 1.3 万人に増加しています。

「田立の滝」は大雨による散策ルート通行止めが繰り返された経緯もあり、ルートの整備状況と入込客数の相関関係があるとみられます。

「柿其渓谷」は、コロナ禍を除き、1 万人を超える入込客数を維持してきており 2023 年には 1.66 万人になりました。

「南木曽山麓」は 1.5 万人程度の入込客数で推移してきています。主にキャンプ場の利用者数となり、コロナ禍でも 1.23 万人の入込客数となっています。

図表 39 観光地別入込客数



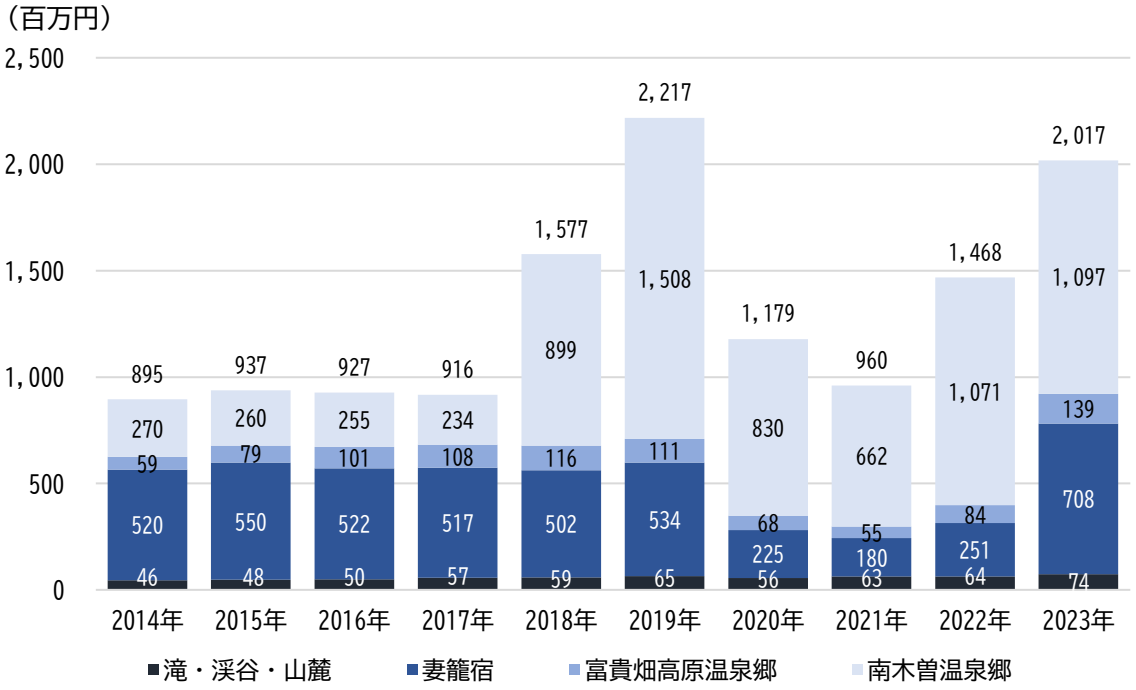
出典：長野県観光地利用者統計調査

（イ） 観光消費額

主要観光地における観光消費額は、2014 年～2017 年は 1 億円を下回る水準で横ばいですが、2018 年から大きく増加し、2019 年には 22 億円を超え最も高くなりました。その後、新型コロナウイルス感染拡大の影響で、2020 年に大きく落ち込みましたが、2023 年には 20 億円まで回復しています。

観光地別にみると、2018 年以降、南木曽温泉郷が最も消費額が大きく、2023 年には 10 億円超となっています。次いで、妻籠宿が 7 億円となっています。

図表 40 観光消費額



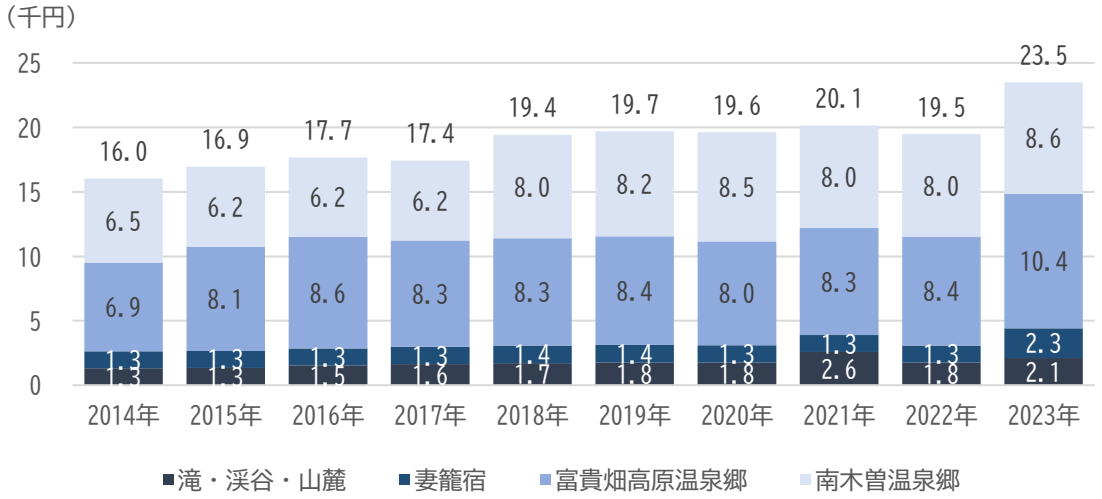
※滝・渓谷・山麓は「田立の滝」「柿其渓谷」「南木曽山麓」を合わせた観光消費額

出典：長野県観光地利用者統計調査

（ウ）一人当たりの観光消費額

観光消費額を一人当たりに換算すると、観光地全体では 2023 年は 2 万 3 千円となっています。観光地別にみると富貴畑温泉郷が８千円強で推移し、2023 年は 1 万円を超えて最も大きくなっています。次いで、南木曽温泉郷が 8 千円強となっています。

図表 41 一人当たりの観光消費額



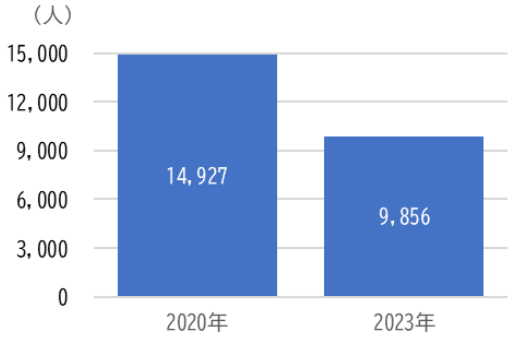
※滝・渓谷・山麓は「田立の滝」「柿其渓谷」「南木曽山麓」を合わせた一人当たりの観光消費額

出典：長野県観光地利用者統計調査

（エ）外国人宿泊者数(町全体)

外国人宿泊者数は、2023 年は 2020 年の 66%まで減少しています。インバウンドによる入込数は増加していますが、宿泊者数は減っており、宿泊につながっていないことがわかります。

図表 42 外国人宿泊者数



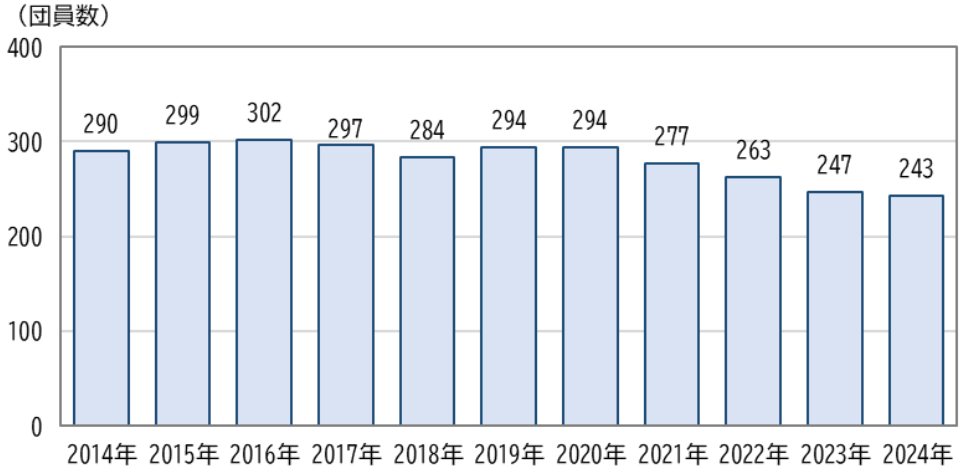
出典：長野県観光地利用者統計調査

第4章 コミュニティ・社会基盤

1. 地域防災

消防団員数は 2020 年ごろまで 300 人近くを維持していましたが、ここ数年は減少しています。

図表 43 消防団員数の推移

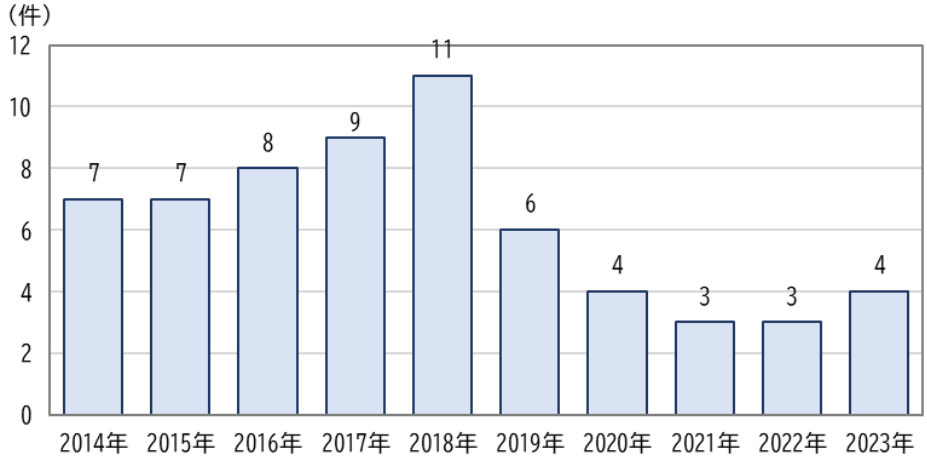


出典：南木曽町

2. 交通安全

交通事故は 2018 年まで増加傾向にありましたが、ここ数年は年間５件以下に抑えることができています。

図表 44 交通事故発生件数の推移



出典：南木曽町

3. 交通

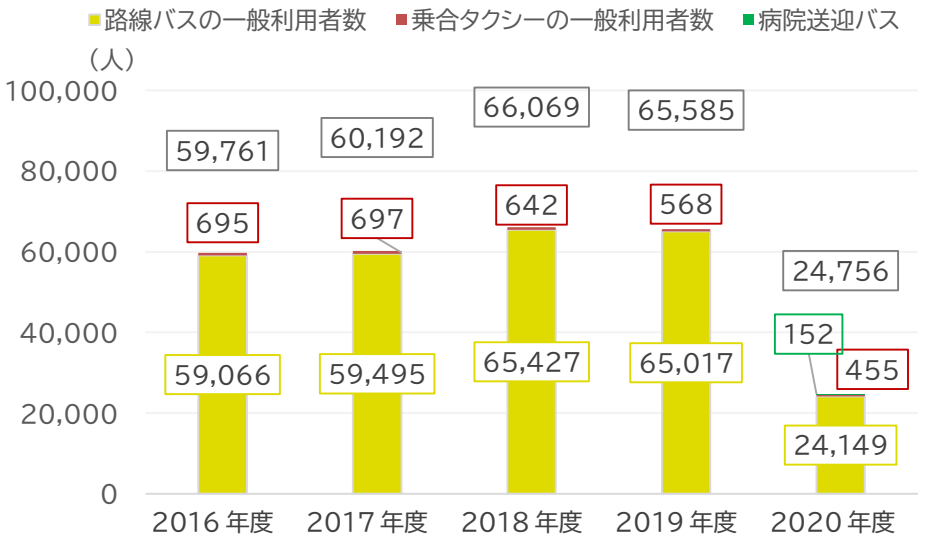
バス交通の利用者数のほとんどは路線バスの利用者が占めています。全利用者数は 2018 年度まで増加傾向でしたが、2019 年度に微減、2020 年度には新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受け、2019 年の 65,585 人から 24,756 人と 62.3%も減少しています。

路線バスの利用者数をみると、2018 年度まで増加傾向、2019 年度に微減、2016 度には新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受け、令和元年度の 65,017 人から 40,868 人(62.9%)減少し、24,149 人となっています。

乗合タクシーの利用者数は毎年度全利用者数の 1.0%前後と非常に少なく、600 人台後半で推移してきましたが、2019 年度の 568 人から 113 人（19.9%）減少し、2020 年度には 455 人となっています。

病院送迎バスは 2020 年 10 月から運行を開始しており、半年間で 152 人の利用がありました。

図表 45 バス交通全体の利用者数の推移

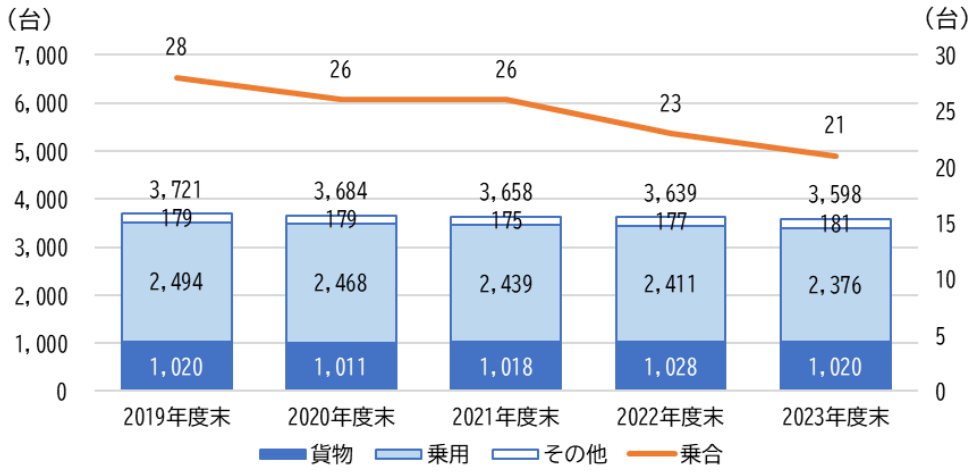


出典：南木曽町

4.自動車等の保有状況

2019 年から 2023 年の 5 年間で、自動車の登録台数は総数で 123 台（3.3%）減少しています。乗合自動車は 7 台（25%）減少しています。

図表 46 南木曽町内の自動車登録台数の推移



出典：北陸信越運輸局長野運輸支局　松本自動車検査登録事務所

第5章 子育て・教育

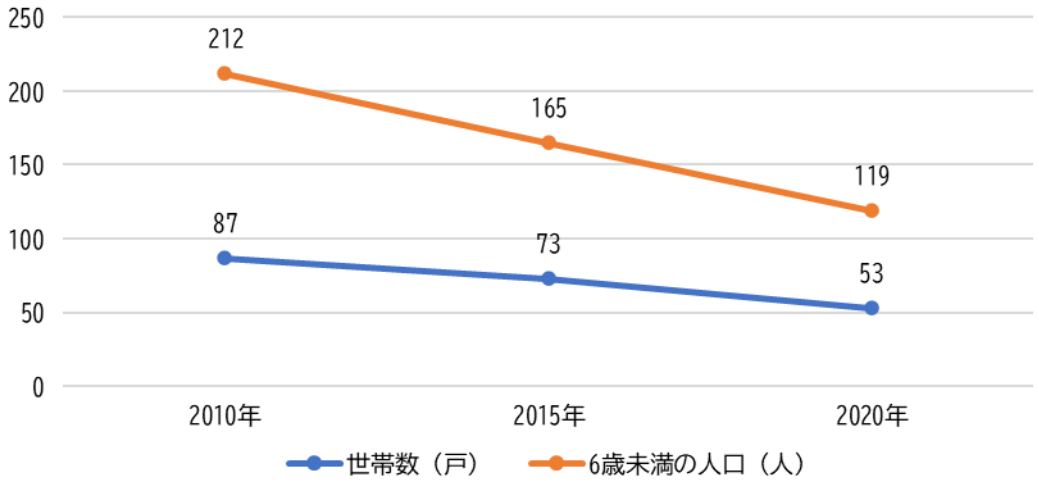
1. 子どもの状況

（1） 子どもの数の推移

① 6歳未満の子と同居世帯の状況

６歳未満の人口及び６歳未満のいる世帯数は減少しています。

図表 47 6歳未満人口と6歳未満の子と同居世帯の推移

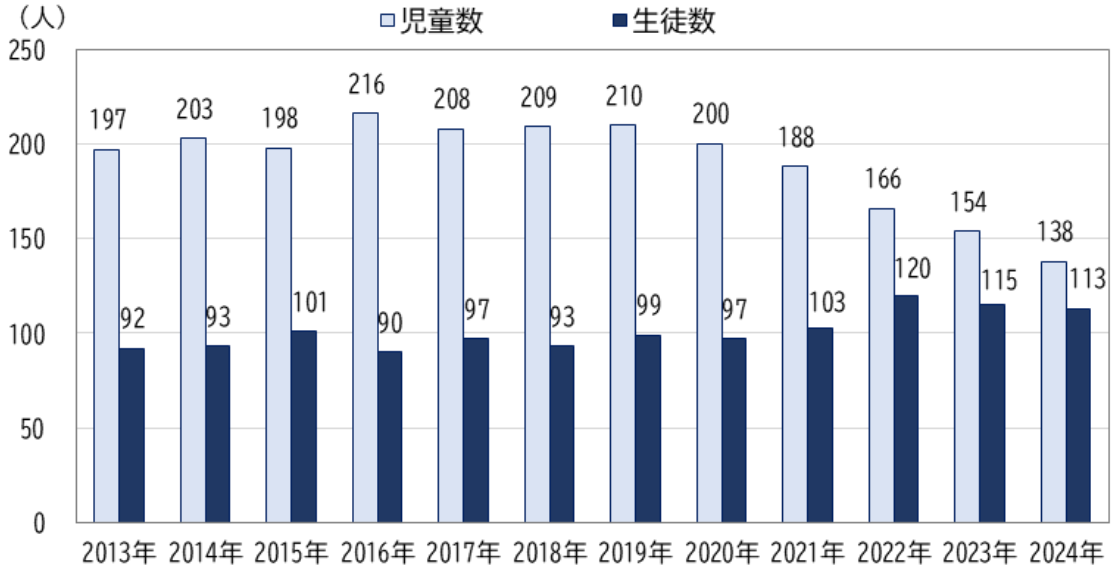


出典：国勢調査

② 児童数と生徒数の状況

小中学校児童・生徒数では、小学児童数の減少が続いています。

図表 48 小中学校の児童・生徒数の推移

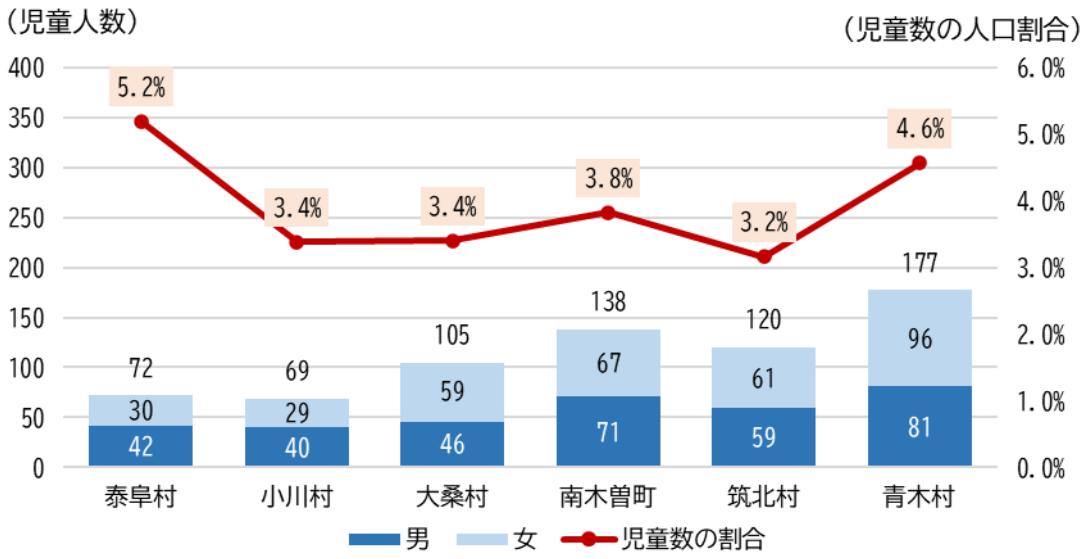


出典：2021～2024 年「学校基本調査」（文部科学省）2013～2020 年「南木曽町の統計資料」

③　類似町村と児童数の比較

類似町村との比較では、人口に占める児童数の割合は南木曽町が 3.8%で、近いのは大桑村、小川村の 3.4%となっています。最も高い割合は、泰阜村で 5.2%です。

図表 49　男女別学年別の小学校児童数（長野県内類似町村比較）

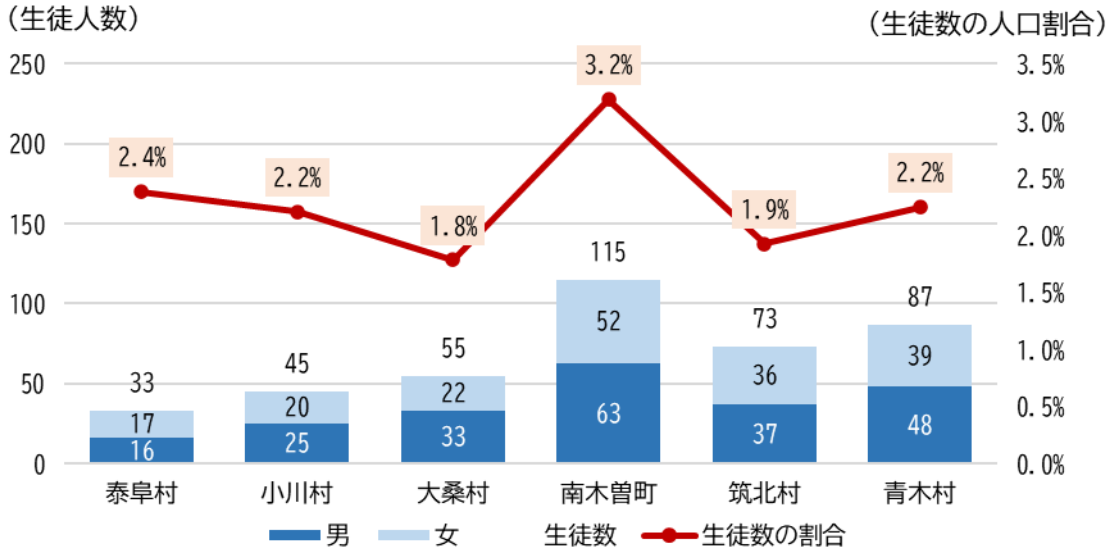


出典：文部科学省「学校基本調査」2023 年

④　類似町村と生徒数の比較

類似町村との比較では、人口に占める生徒数の割合は南木曽町が 3.2%で最も高い割合になっています。次いで、泰阜村が 2.4%となっています。

図表 50　男女別学年別の中学校生徒数（長野県内模類似町村比較）



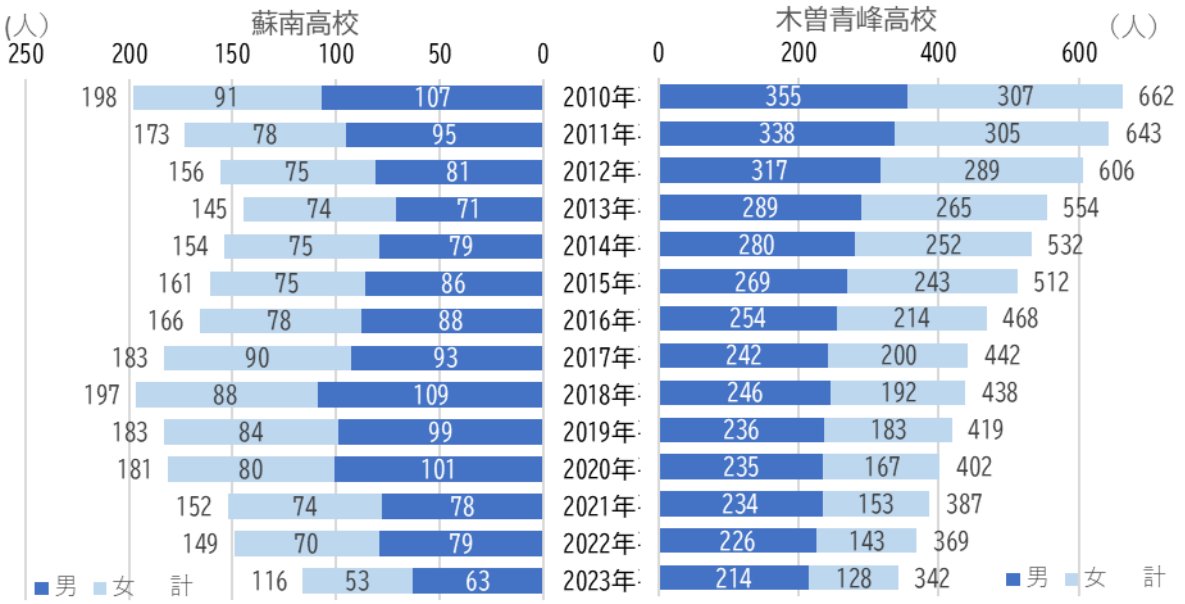
出典：文部科学省「学校基本調査」2023 年

（２） 蘇南高校への進学状況

木曽青峰高校への進学者数が毎年 22.9 人平均で減少しているのに対して、蘇南高校は 2018 年に 2010 年水準まで進学者が増加するなど、進学者数に変化がみられます。

2023 年は、2010 年と比較すると、蘇南高校で 82 人減少、木曽青峰高校では 320 人減少となっています。

図表 51 木曽郡内の高校の生徒数の推移



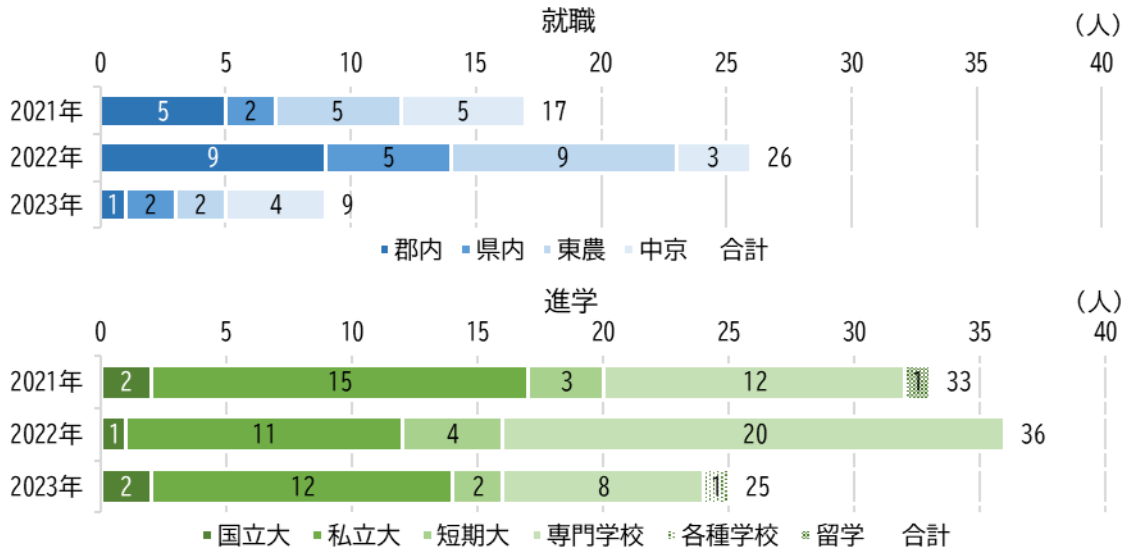
出典：長野県教育委員会

（３） 蘇南高校卒業後の進路

蘇南高校の卒業生の進路は、就職では郡内と東農、中京方面が半々になっています。

進学は、半数から７割程度となっており、大学は、進学する者の半数から３分の１程度となっています。

図表 52 蘇南高校卒業者の進路



出典：蘇南高校

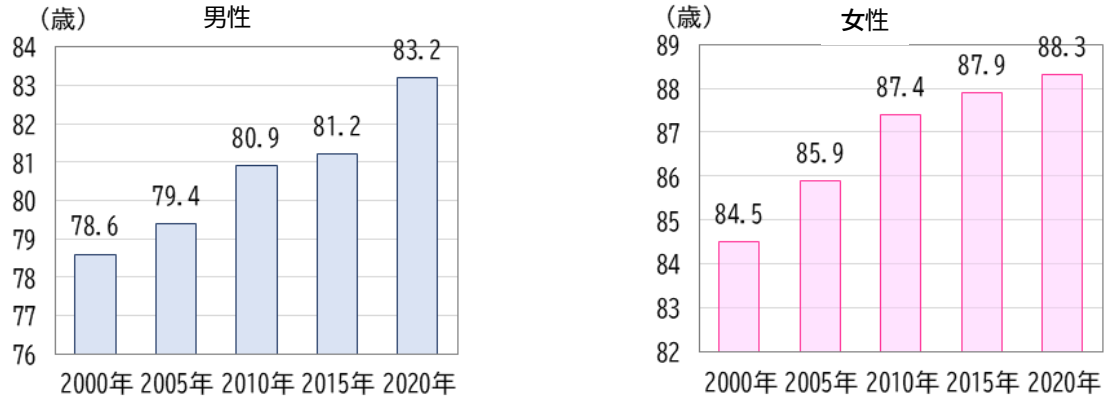
第6章 健康・医療・福祉

1. 健康づくりの状況

（1） 平均寿命

平均寿命は、2000 年から 2020 年にかけて男性が 4.6 歳、女性が 3.8 歳伸びています。

図表 53 男女別平均寿命の推移



出典：厚生労働省「市区町村別生命表」

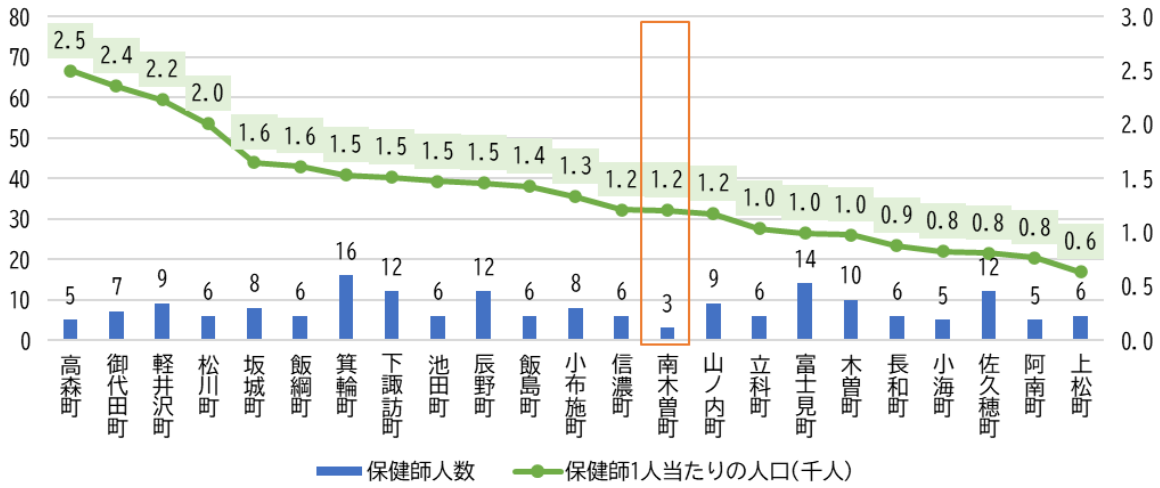
（2） 保健師一人当たりの人口

保健師一人当たりの人口を長野県内の町と比較した場合、南木曽町は人口 1,200 人に対して 1 人配置していることになりました。

保健師の配置が多い町は、上松町が人口 600 人に対して保健師 1 人の配置となっています。保健師の人数が最も多いのは、箕輪町で 16 人、最も少ないのは、南木曽町で３人となっています。

図表 54 長野県内の町における保健師の配置状況

（長野県内の町の比較）



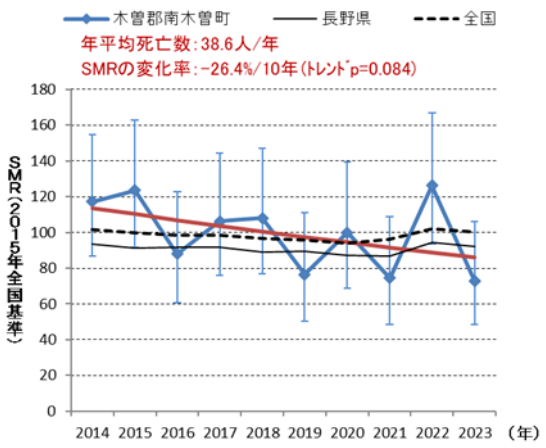
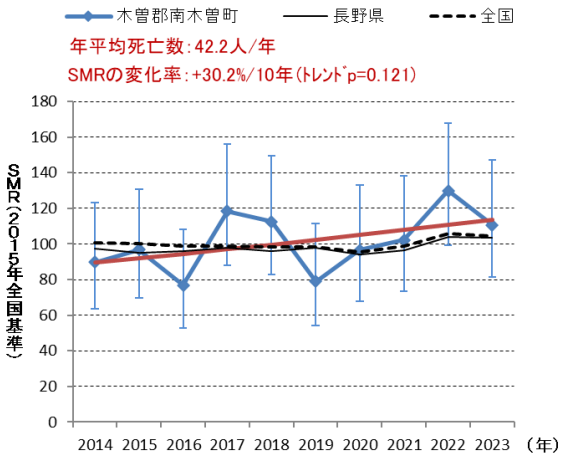
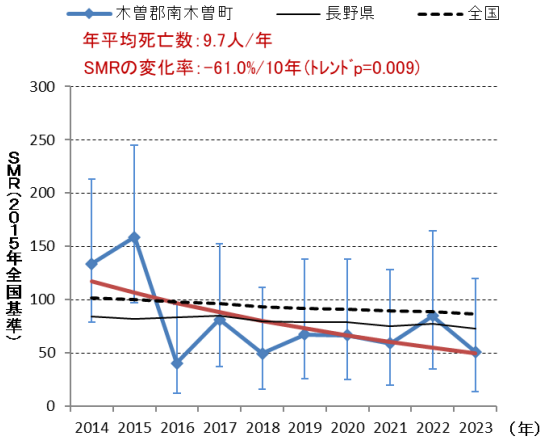
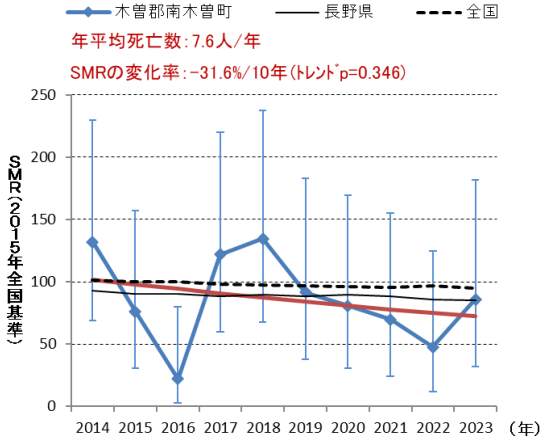
出典：厚生労働省　保健師活動領域調査　令和 5 年度

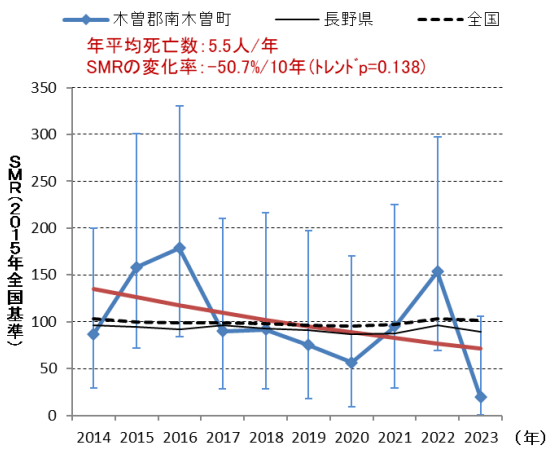
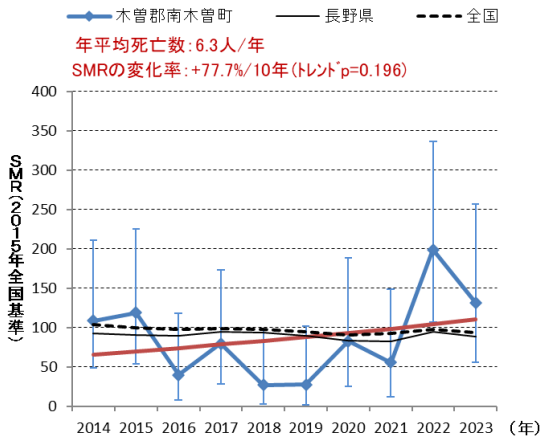
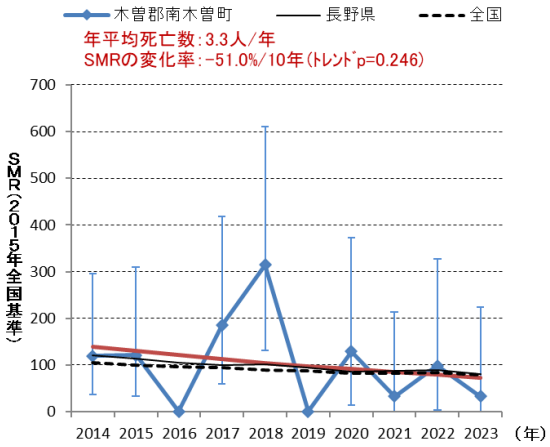
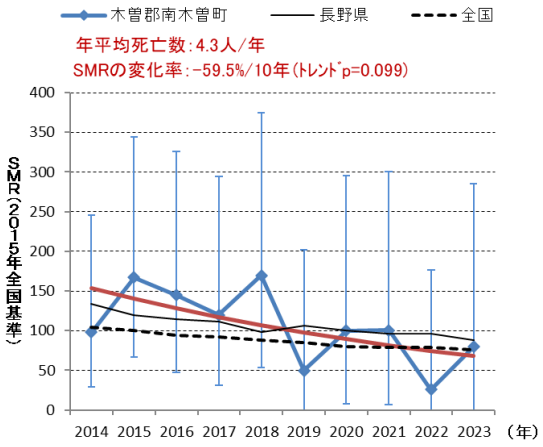
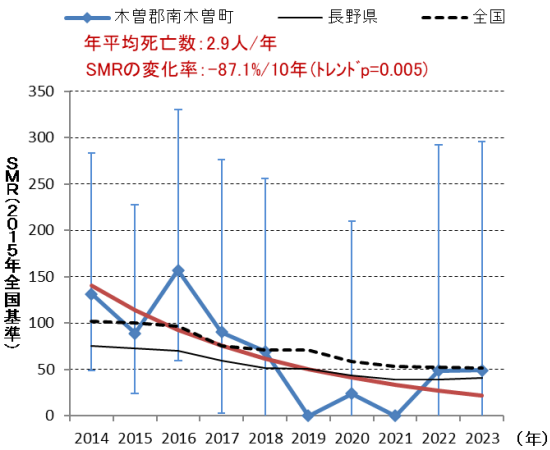
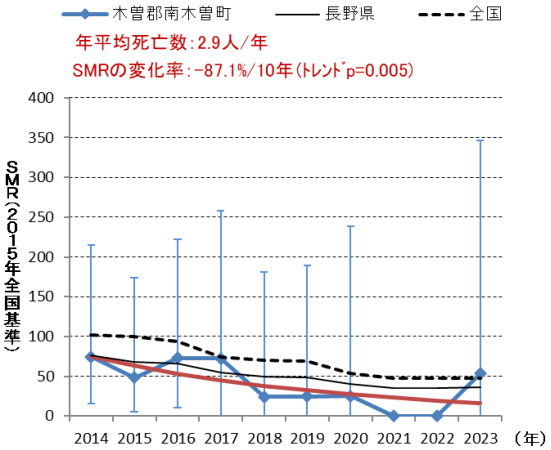
（3） 死亡者数および死因の推移

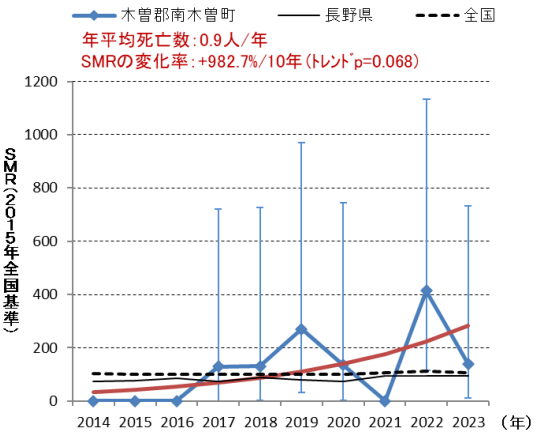
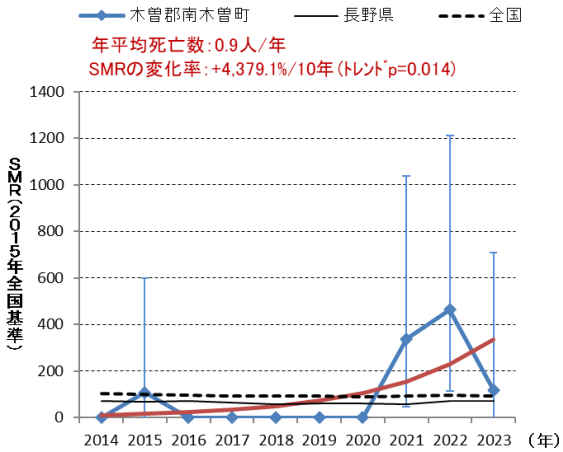
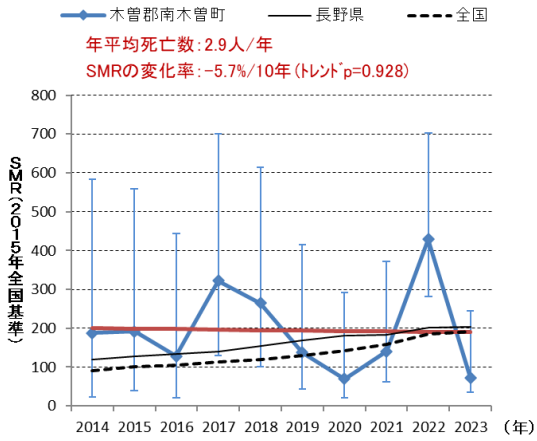
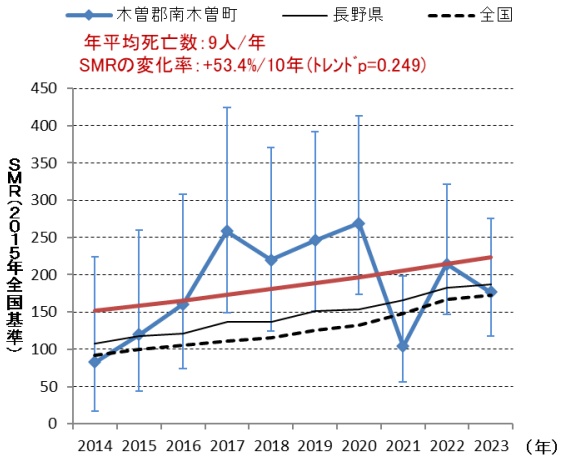
生活習慣病として位置付けられる主な疾患は、高血圧症、脂質異常症（高脂血症、高尿酸血症など）、心筋梗塞、狭心症などの心疾患、脳梗塞、くも膜下出血などの脳血管疾患、糖尿病（成人型）、アルコール性肝疾患、がん（悪性新生物）、歯周病、慢性腎臓病、肝硬変などがあります。

全死因では、全国や長野県との比較で、女性は増加傾向がみられます。また、死因別での比較多いものは、2022 年の腎不全によるものがあげられます。一方、肺炎は男女ともに全国や長野県との比較で低めに推移しています。

図表 55 全国を 100 とした場合の南木曽町の死因

	男性	女性
全死因		
悪性新生物		

高血圧を除く心疾患		
脳血管疾患		
肺炎		

腎不全		
老衰		

出典：国立保健医療科学院ホームページ　（https://www.niph.go.jp）

2. 医療の状況

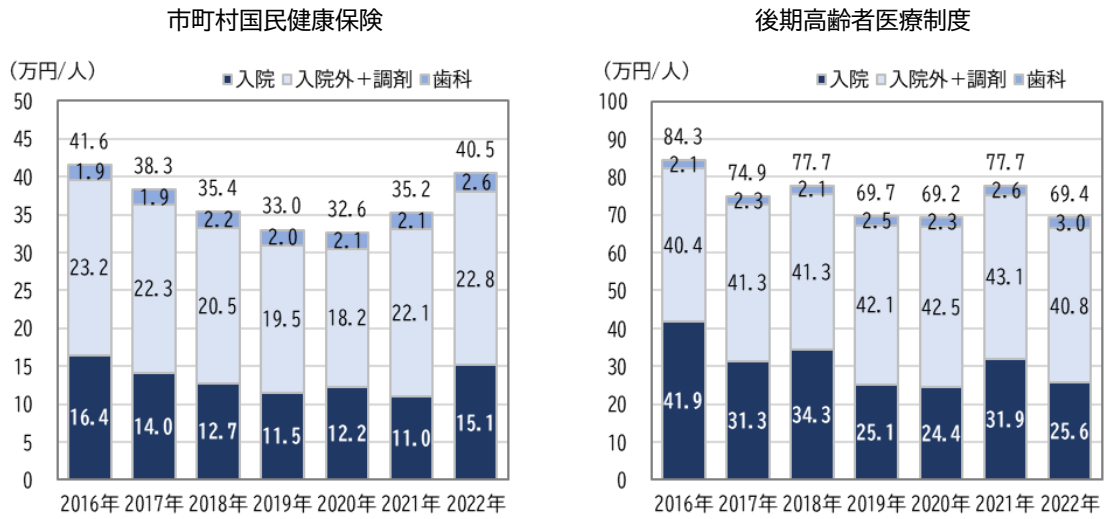
（1） 医療費

国民健康保険の一人当たりの費用は、2020 年に 32.6 万円/人にまで下がりましたが、2022 年には、40.5 万円/人までに増加しました。

後期高齢者医療制度の費用は、2016 年の 84.3 万円/年から減少傾向がみられ、2022 年には 69.4 万円/人となっています。

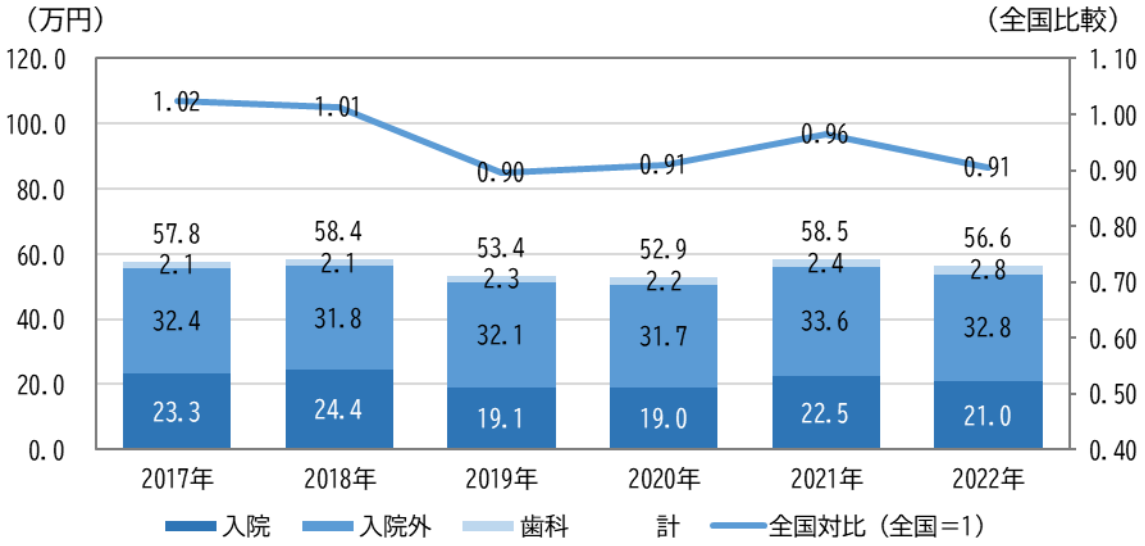
全国との比較では、全国水準を 1 としたとき、2017 年に南木曽町は 1.02 でしたが、2019 年には 0.90、2022 年は 0.91 と全国水準を下回っています。

図表 56 一人当たりの実績医療費の推移



出典：厚生労働省　医療費の地域差分析

図表 57 一人当たり市町村国民健康保険料給付額の推移



出典：厚生労働省「医療費の地域差分析」

3. 高齢者福祉の状況

（１） 高齢化の状況

① 後期高齢者人口の推移と推計

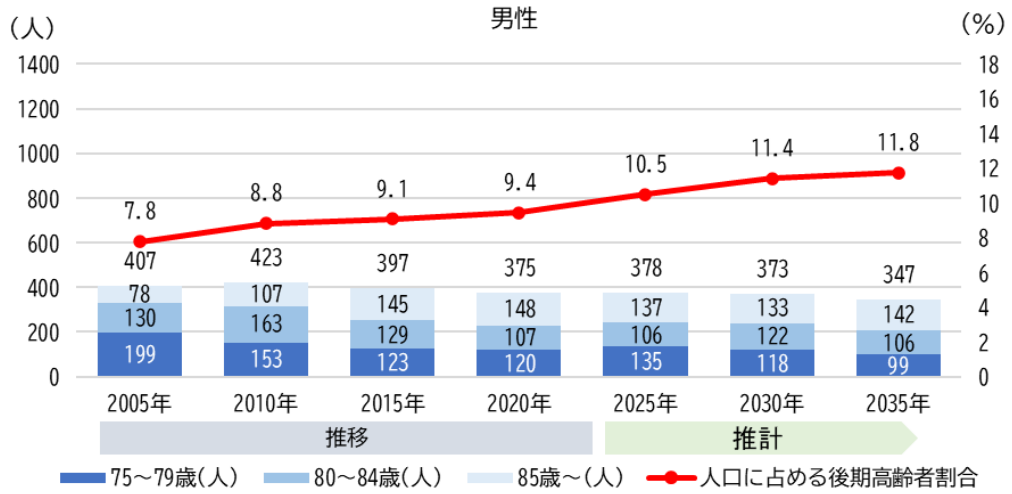
後期高齢者人口の推移は、男性では 2005 年から 2020 年で 32 人減少しました。85 歳以上の人口は、2005 年に 78 人でしたが、2020 年には 148 人と 70 人増加しました。

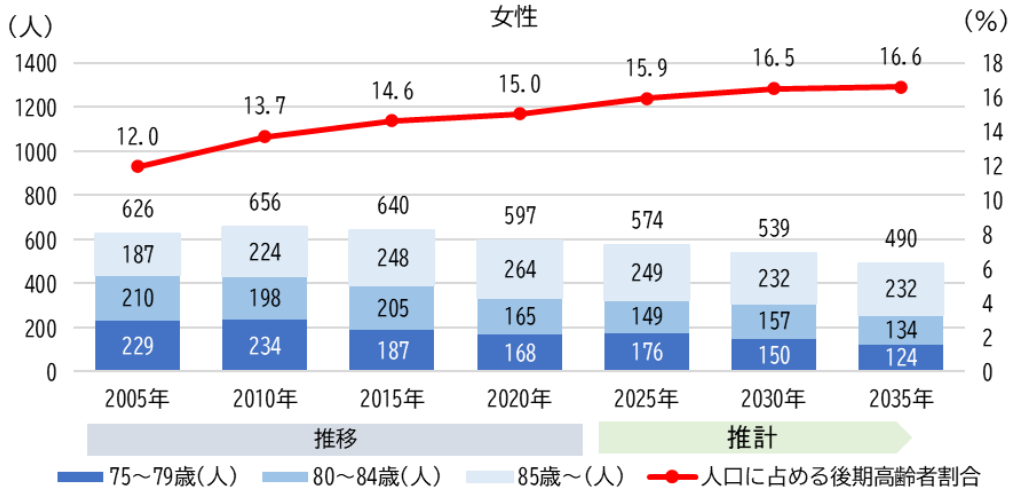
2035 年までの推計値では、後期高齢者人口は、28 人減少しますが、人口に占める割合は 11.8%に増加すると予測されています。

女性では、2005 年から 2020 年で 29 人減少しました。85 歳以上の人口は、2005 年に 187 人でしたが、2020 年には 264 人と 77 人増加しました。

2035 年までの推計値では、後期高齢者人口は、107 人減少しますが、人口に占める割合は 16.6%になると予測されています。

図表 58 男女別人口に占める後期高齢者の割合と5歳毎の人口の推移と推計



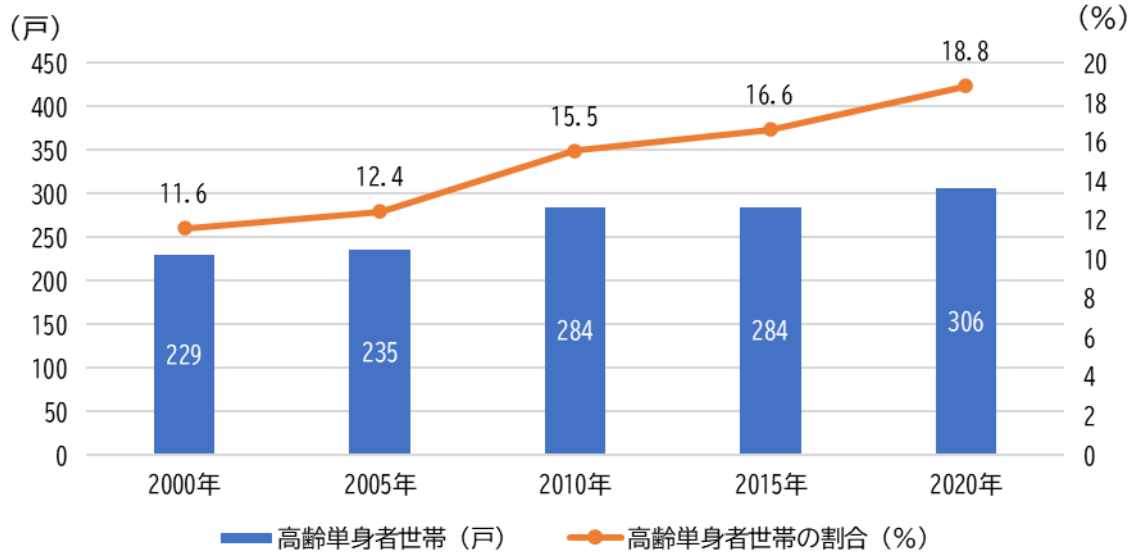


出典：国勢調査
国立社会保障・人口問題研究所（市区町村別男女５歳階級別データ）

② 高齢者単独世帯の推移

高齢者単独世帯の推移は、2000 年から 2020 年で 77 世帯増加し、全世帯に占める割合は、2000 年に 11.6%でしたが、2020 年には 18.8%に増加しています。

図表 59 高齢者単独世帯の戸数と全世帯数に占める割合

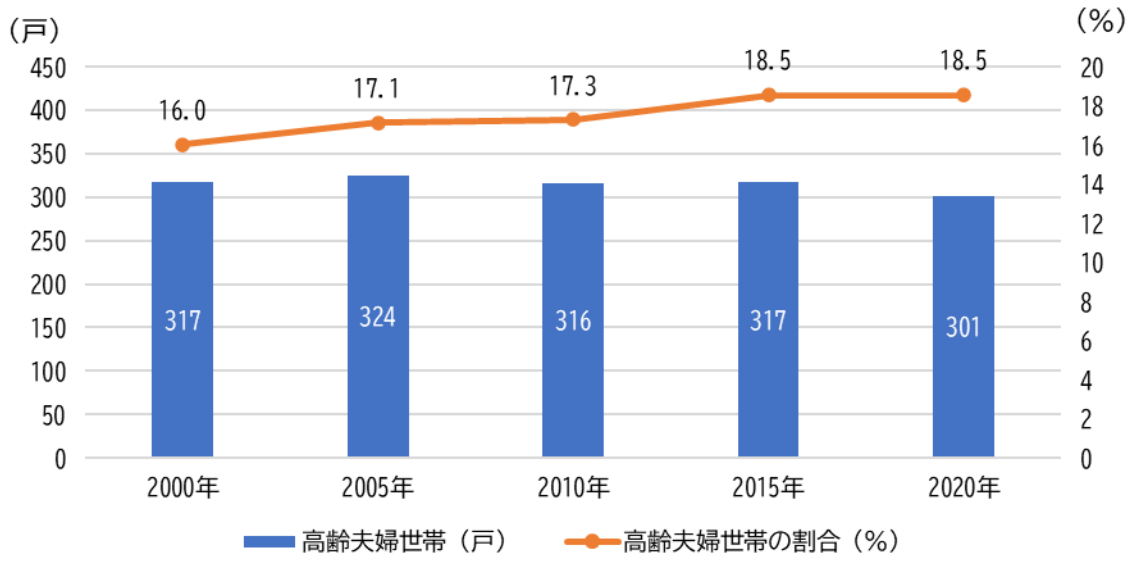


出典：国勢調査

③ 高齢者夫婦世帯の推移

高齢者夫婦世帯の推移は、2000 年から 2020 年で 16 世帯減少しています。全世帯に占める割合は、2000 年に 16.0%でしたが、2020 年には 18.5%に増加しています。

図表 60 高齢者夫婦世帯の戸数と全世帯数に占める割合



出典：国勢調査

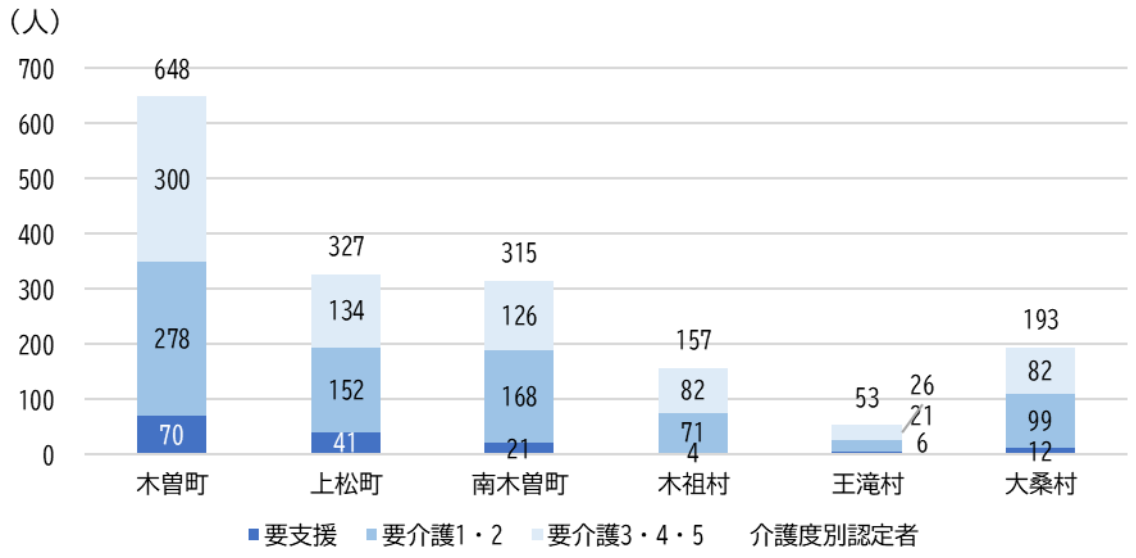
（２） 介護保険の状況

① 要支援･要介護認定者数･認定率

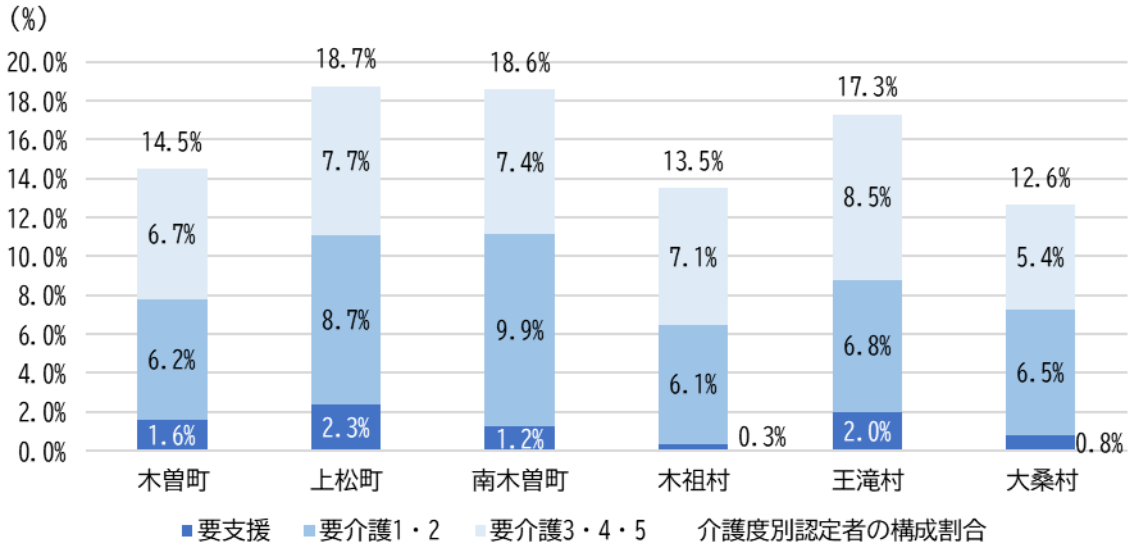
2022 年９月時点での南木曽町の要介護認定者数は、要支援が 21 人、要介護度１・２が 168 人、要介護度３・４・５は 126 人で、315 人が認定を受けています。

認定率でみると、18.6％と上松町の 18.7％に次いで高い値となっています。木曽郡内他町村との比較では、要介護度１・２の認定割合が 9.9％と高くなっています。

図表 61 木曽広域連合構成市町村の認定者数（2022 年９月）



図表 62 木曽広域連合構成市町村の認定率（2022 年９月）



出典：木曽広域連合第 9 期介護保険事業計画

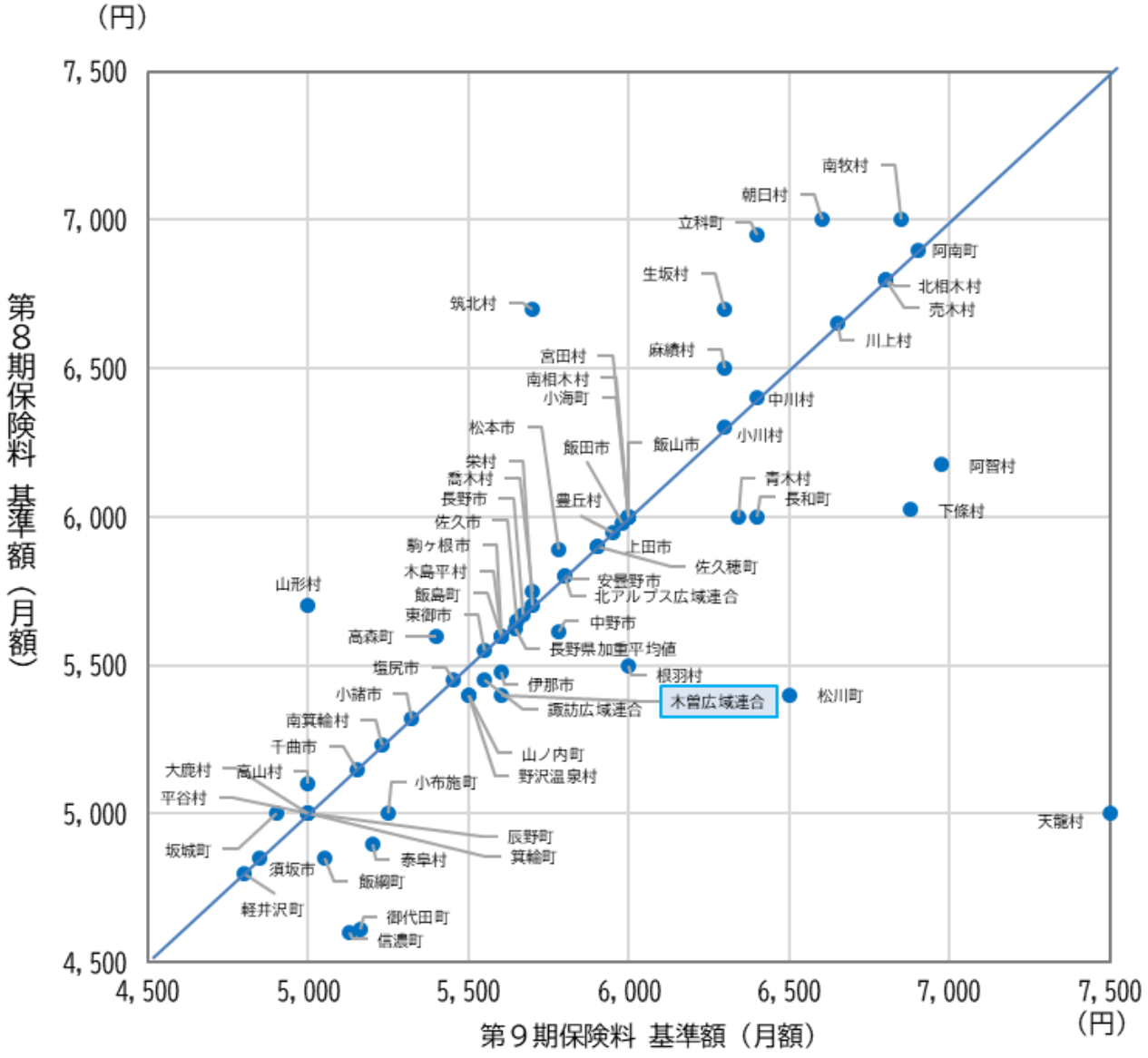
② 第1号被保険者1人あたりの介護保険料

第８期（2021～2023 年）介護保険事業計画期間と、第９期（2024～2026 年）介護保険事業計画期間の月額保険料を比較すると、南木曽町の保険者である木曽広域連合の保険料が値上がりしていることが分かります。

他の保険者との比較では、第８期の保険料では、塩尻市と同レベルでした。第９期の保険料は、東御市と同レベルになります。

保険者が広域連合である第９期の保険料を比較すると、木曽広域連合は最も安い保険料となっています。

図表 63 第 8 期と第 9 期の介護保険料基準月額比較



出典：医療経済研究機構

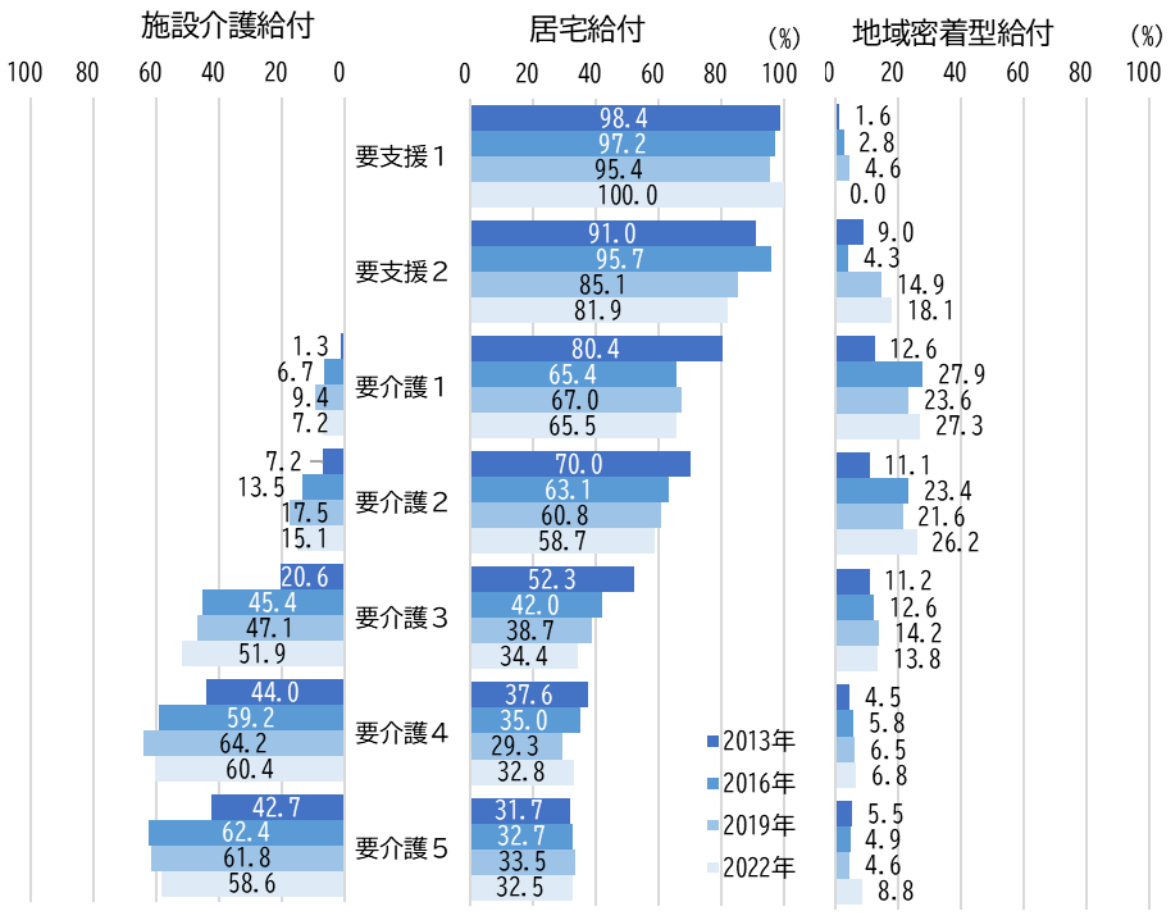
③　介護給付費の推移

木曽広域連合における給付の推移をみると、施設介護給付は 2016 年に大きく増加しています。

居宅給付は、要支援１と要介護度５以外は減少傾向になっています。

地域密着型サービスは、全ての認定区分で増加傾向になっています。

図表 64　木曽広域連合における介護給付費総額に占める各サービスの給付費割合
（各介護保険事業計画期間の中間年度比較）



出典；厚労省　介護保険事業状況報告

④　サービス利用者一人当たりの介護給付費

南木曽町サービス利用者一人当たりの給付額の推移は、総額では、16,407 千円減少しています。

図表 65 サービス利用者一人当たりの介護給付費

（単位：千円）

サービス種別	2017 年	2018 年	2019 年	2020 年	2021 年	2022 年
総額	626,821	613,523	619,049	621,764	646,765	610,414
居宅サービス	108	100	107	110	110	110
地域密着サービス	130	120	121	120	129	143
施設サービス	246	303	251	258	260	260

（各サービスは延べ人数割）

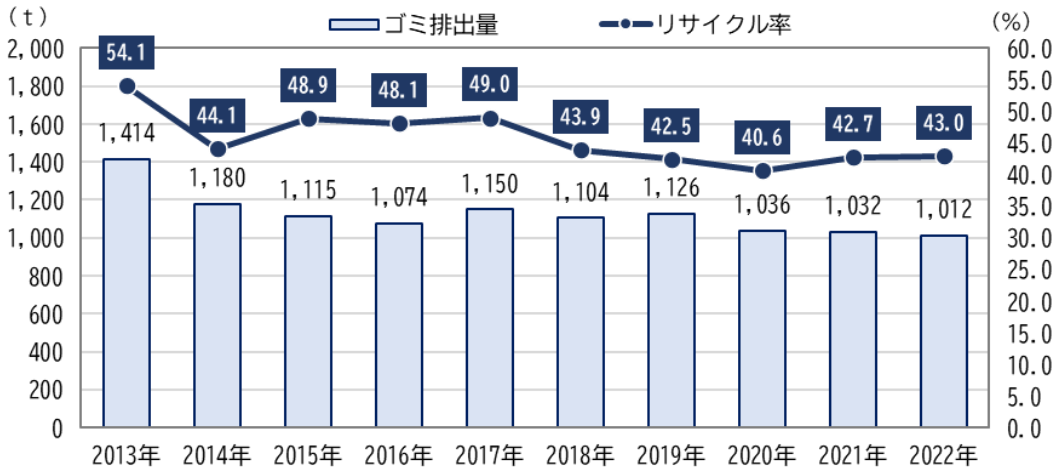
出典：南木曽町の統計資料 2023

第7章 環境・エネルギーの状況

1. ゴミの排出量

ゴミの排出量は、2013 年に 1,414 t でしたが、2022 年には、1,102 t になり 312 t (22.0%) 減少しています。リサイクル率は、2013 年には 54.1%でしたが、2014 年には 50%を下回り、2022 年では、43.0%まで減少しています。

図表 66 ごみ排出量とリサイクル率の推移

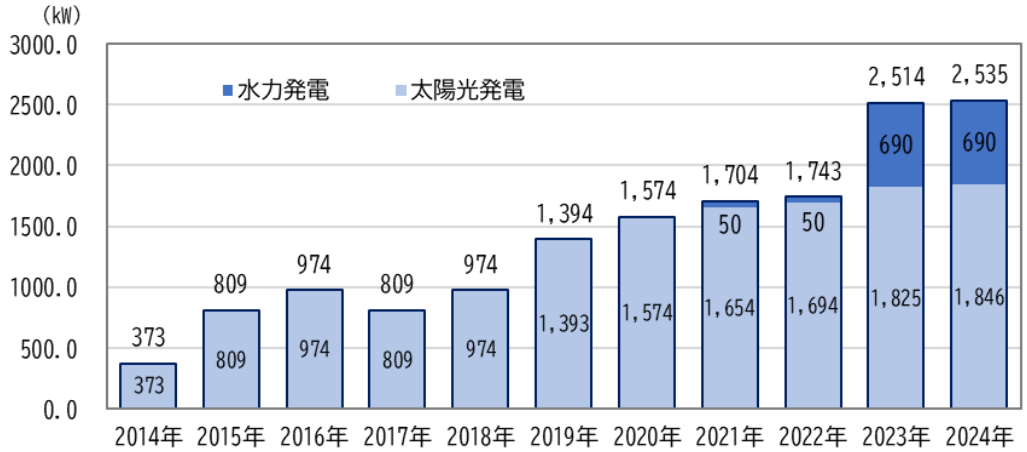


出典：環境省　一般廃棄物処理事業実態調査

2. 再生可能エネルギー導入容量

再生可能エネルギー導入量は、太陽光発電が 2014 年に 373kw でしたが、2024 年には 1,846kw と、約 5 倍に増加しています。水力発電は、2021 年にはじまり、50kw から、2023 年以降は 690kw と 14 倍近く増加しています。

図表 67 再生可能エネルギー導入容量の推移



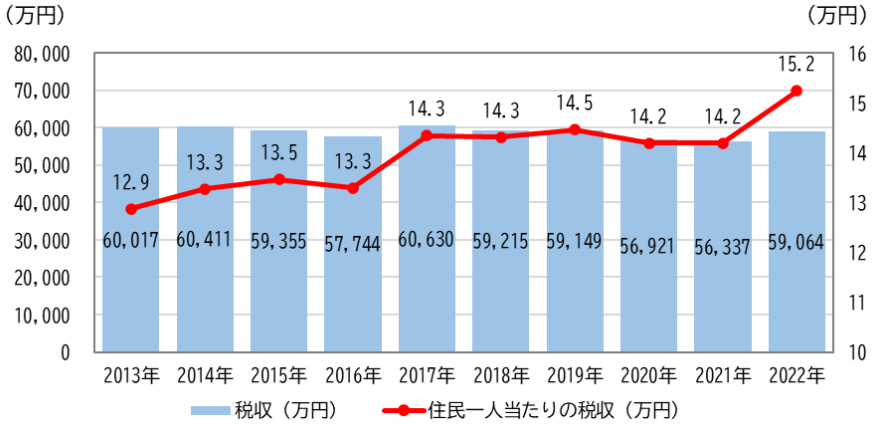
出典：経済産業省資源エネルギー庁　固定価格買収制度　情報公表用ウェブサイト

第8章 行財政の状況

1. 税収入および住民一人当たり税収入の推移

町の税収は、2013 年度で、60,017 万円でしたが、2021 年度はこの 10 年間で最も低い 56,337 万円となっています。2022 年度では 59,064 万円と前年度との比較で 2,727 万円増加となっています。また、住民一人当たりの税収は、2013 年度には 12.9 万円でしたが、2022 年度には、15.2 万円と、2.3 万円（17.8%）増加しています。

図表 68 地方税の収入済額と当該年度の住民登録した者(1/1)で除した額の推移

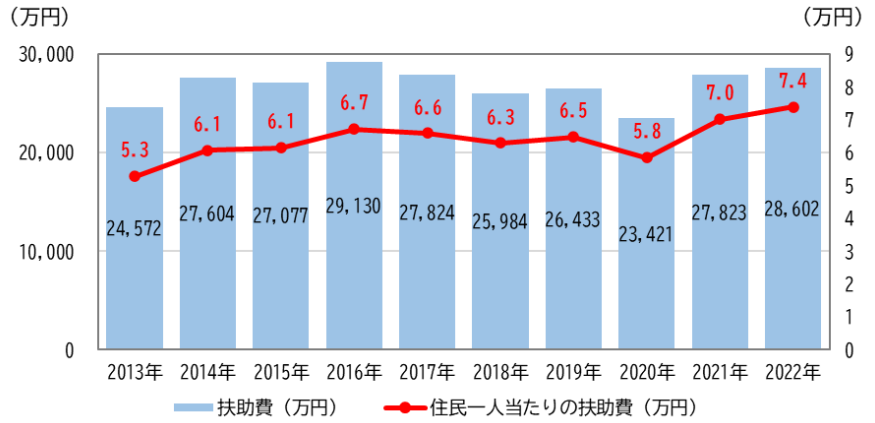


出典：長野県　市町村別財政状況資料集

2. 町民一人当たりの扶助費

扶助費は、総額で 2013 年度は、24,572 万円でしたが、2020 年度はこの 10 年間で最も低い 23,421 万円となっています。2022 年度には 28,602 万円となっています。住民一人当たりの扶助額は、2013 年度は、5.3 万円でしたが、2022 年度には 15.2 万円となっていますが、2022 年度との比較では、1 万円増加しています。

図表 69 扶助費の決算額と当該年度の住民登録した者(1/1)で除した額の推移



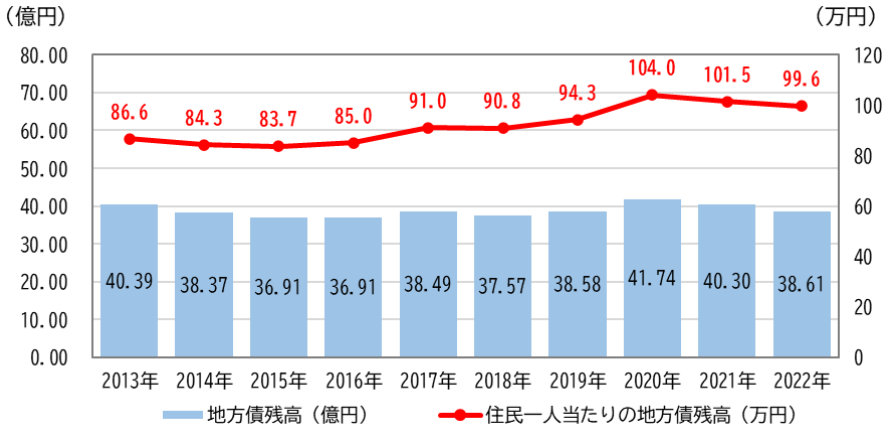
出典：長野県　市町村別財政状況資料集

3. 町民一人当たり地方債残高

公債費残高は、2013 年度は 40.39 億円でした。2020 年度はここ 10 年間で最も高い 41.74 億円となっています。2022 年度は、2020 年度より 3.13 億円下がり、38.61 億円となっています。

住民一人当たりの公債費は、2013 年度で 86.6 万円でしたが、2020 年度にはここ 10 年間で最も高い 104.0 万円となっています。

図表 70 毎年度末の地方債の残高と当該年度の住民登録した者(1/1)で除した額の推移



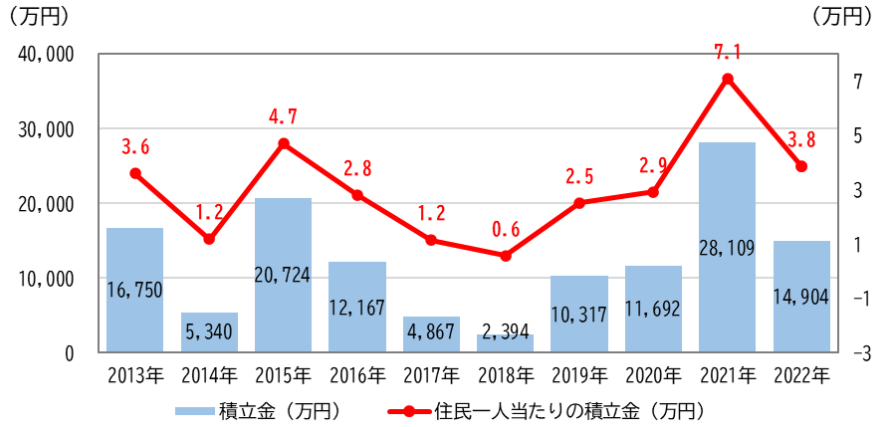
出典：長野県　市町村別財政状況資料集

4. 町民一人当たり積立金残高

積立金は、2013 年度は、16,750 万円でした。2021 年度はこの 10 年間で最も高い 28,109 万円となっています。2022 年度は、2021 年度より 13,205 万円下がり、149,404 万円となっています。

住民一人当たりの積立金は、2013 年度で 3.6 万円でしたが、2021 年度にはこの 10 年間で最も高い 7.1 万円となっています。

図表 71 南木曽町の積立金の額の推移と当該年度の住民登録した者(1/1)で除した額の推移

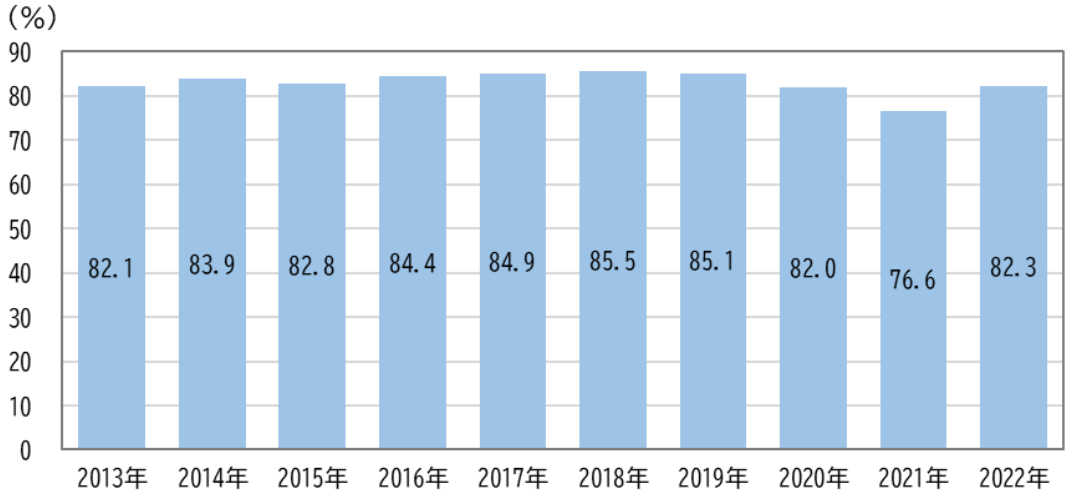


出典：長野県　市町村別財政状況資料集

5. 経常収支比率の推移

経常収支比率は、2013 年度は、82.1%でした。2021 年度はこの 10 年間で最も低い 76.6%となっています。2022 年度は、2021 年度より 5.7 ポイント上昇し 82.3%となっており、2013 年度の収支比率に近い割合になっています。

図表 72　経常収支比率の推移

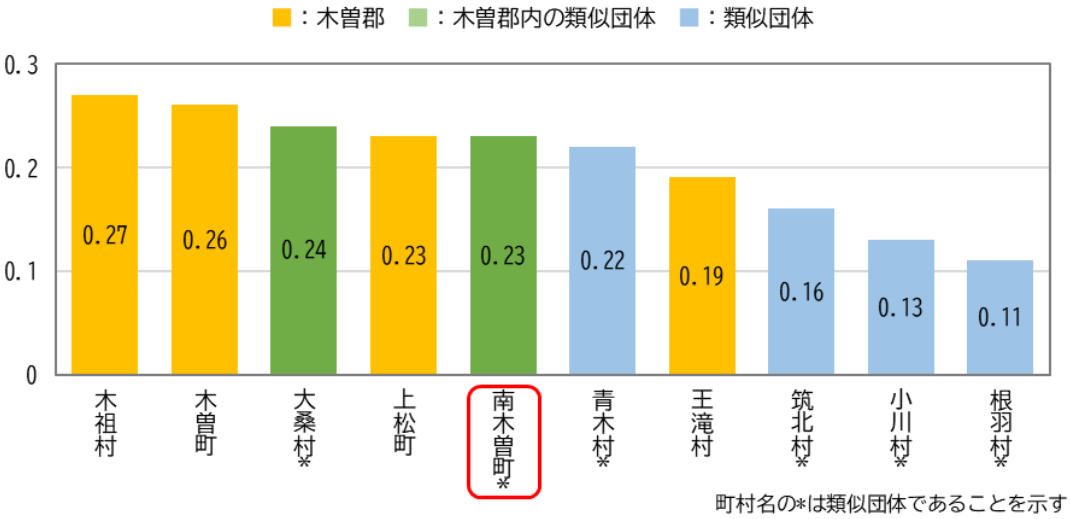


出典：長野県　市町村別財政状況資料集

6. 木曽郡内町村及び類似団体との財政指数の比較

南木曽町の財政指数は、0.23 であり、木曽郡内では上松町と並んでいます。類似団体との比較では、大桑村の 0.24 に次ぐ値となっています。

図表 73　令和 5 年度の財政指数に関する木曽郡内町村と類似団体の比較



出典：長野県　市町村別財政状況資料集